

千葉市花輪貝塚出土の埋設注口土器の系譜(1)

－関東地方における土壙出土の注口土器集成から－

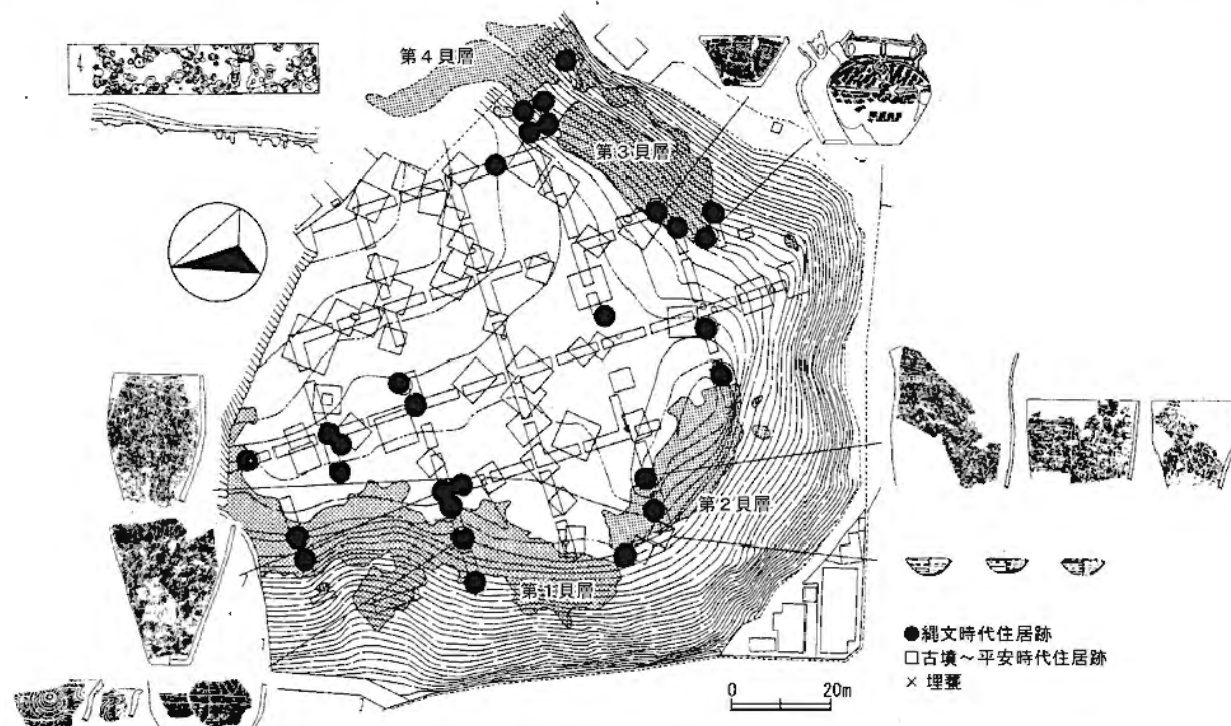
田中 英世

はじめに

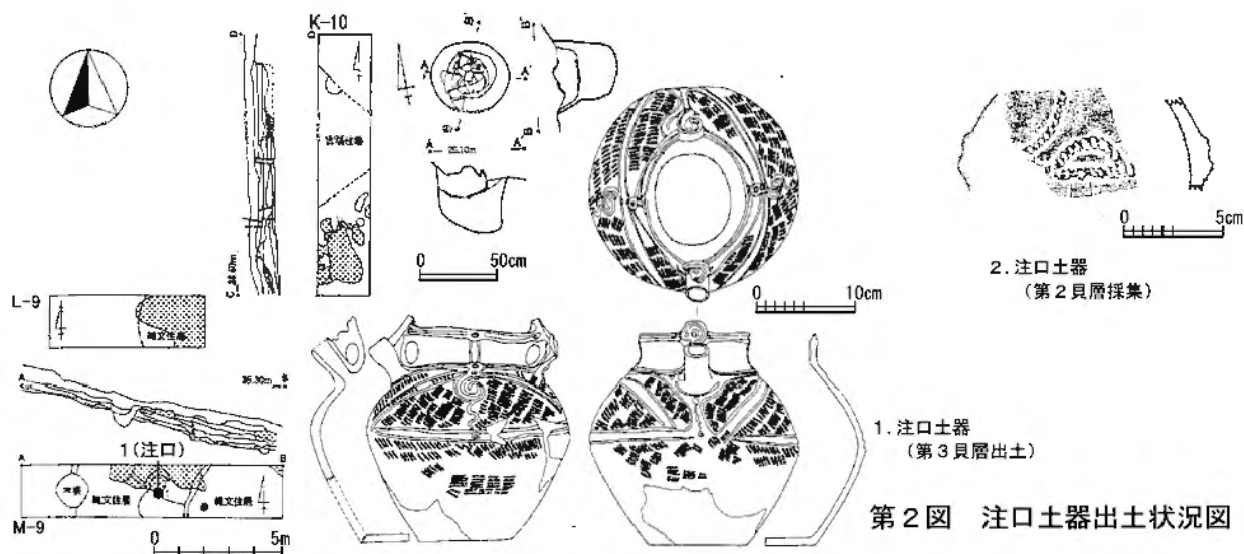
花輪貝塚は、2003(平成15)年度に確認調査を行ない、2005(平成17)年に国の指定を受けた。その際、埋設された注口土器が出土し、報告書では神奈川県帷子峰遺跡第54号土壙に類例を求めたが、大きな誤りであった。2007(平成19)年2月に、千葉市立加曽利貝塚博物館の郷土史講座で、この注口土器を中心に『史跡花輪貝塚の確認調査の成果』と題し講演を行ったが、検討が不十分であった。今回は訂正の意味も含め、関東地方における土壙出土の注口土器集成を行い、花輪貝塚出土の注口土器の系譜を追ってみたい。

1. 花輪貝塚の概略(第1図・第2図)

花輪貝塚は、加曽利貝塚の南西900mに位置し、縄文時代後期堀之内式期のみで形成された直径120mの環状貝塚である。2003(平成15)年の確認調査の結果、縄文時代の住居29軒、古墳～平安時代の住居50軒が検出された他、人骨1体・屋外埋設深鉢土器2基が検出された(1図)。注口土器は、第3貝層の南側先端部の斜面部のL-9グリッドから出土。0.56×0.52mと、土器より一回り大きな掘方を有する埋設土



第1図 花輪貝塚全体図



第2図 注口土器出土状況図

器で、正位の潰れた状態で出土した(2図)。形状は球形を呈し、注口部と把手が連結しており、胴部上半には2本1組の沈線と磨消縄文により半円の文様を描出し、把手と直交する位置には、沈線による渦文を描出している。表面は丁寧に磨かれており光沢を有する(文献1)。

2. 関東地方の土壌出土の注口土器(第3図～第18図)

関東地方の、土壌出土の注口土器を、第1表の出土状況別に分類し、集成を行った結果が第2表である。時期は、Ⅰ期－中期後半・加曽利E3・E4式期 Ⅱ期－後期前半・称名寺～堀之内2式期 Ⅲ期－後期中葉・加曽利B～曾谷式期 Ⅳ期－後期後半・安行1～安行2式期 Ⅴ期－晩期前半・安行3a～安行3d式期 Ⅵ期－晩期後半・千網～荒海式期に分け、図は県単位で集成し、土器は原則1/10としたが、遺構縮尺は任意であり、原本で確認して頂きたい。

A－掘り込みを伴わない例

1. デボ的出土例 a－単独出土 Ⅰ期－武蔵台(17図1)(東京)。加曽利E4式の瓢型注口土器に6点の磨製石斧を内蔵し、蓋に使用した浅鉢形土器を伴う。正位。Ⅱ期－桜塚(東京)、堀之内1式の注口土器に磨製石斧3点を内蔵する。このような例は、他に10点の磨製石斧を内蔵した戸塚向山6号住居(埼玉)例があるのみである。

2. 埋設出土例 a－単独出土 Ⅱ期－帷子峯(15図1)(神奈川)・国衙(19図1)・下縄引ⅡU1号埋設土器(19図3)(群馬)。帷子峯例は、堀之内1式の瓢形の底部穿孔土器で、類例は山梨県中谷遺跡例がある(文献2)。国衙例は、堀之内1式の浅鉢形土器。稻荷通りAU1号土器埋設遺構(19図2)(群馬)は、同系列の浅鉢形土器の注口部が窪みに形骸化した土器。共に逆位で出土。下縄引Ⅱ例は、堀之内2式の球胴形土器が斜位で出土。

b－他の土器と複数個体出土例 Ⅱ期－寺ノ代011遺構(3図1)(千葉)。正位4点の屋外埋設土器に伴って算盤玉形の注口土器が出土。黒色土中で明確な掘り込みが認められない等で、花輪貝塚1号・2号埋設土器と共通している。Ⅲ期－株木東11号埋甕(千葉)。堀之内1式の浅鉢形土器が共伴しており、斜位で出土(註1)。

3. 包含層出土例 Ⅱ期－氷川前第7地点(9図1)(埼玉)。球胴形注口土器が正位の状態で出土。Ⅲ期

一本目(9図2)(埼玉)・大磯小学校(16図18)(神奈川)。本目例は、注口土器2点と小形深鉢形土器がセットで出土。土壌墓と思われ、大磯小学校例も同様のセットが認められる(註2)。**V期**—黒谷田端前(9図3)(埼玉)。晩期の包含層中から注口土器を含む完形土器18点が、径9mの円形の範囲から出土。土器は置かれた状態ではなく、各ブロック毎に一括廃棄された可能性がある。包含層や貝層から掘り込みを伴わずに出土する例は非常に多く、今後これらの例を再度検討する必要がある。

B—土壌出土

1—注口土器より一回り大きな土壌からの出土例。埋設土器と捉えられる。**a—単独出土** **Ⅱ期**—花輪(2図1)(千葉)・北原(N○9)J2号埋設土器(15図3)・遠藤広谷7号土壌(15図4)(神奈川)・八剣SK628(13図1)・ハッケトンヤSX02(13図2)・塙平SK377(13図3)・小鍋前SK956(13図5)・寺野東埋105(14図23)(栃木)・中江田A1号土壌(19図4)・内匠上之宿7号埋設土器(19図5)・天神原D5(19図8)・中島D20(19図9)(群馬)・明戸東SK225(9図4)(埼玉)。北原例は瓢形土器。花輪例と共に正位。遠藤広谷と群馬県の4例は、何れも浅鉢形土器で逆位。ハッケトンヤ例は、網取1式の浅鉢形土器が合口の蓋の状態で出土。寺野東例は正位。八剣例は瓢形土器。塙平例・小鍋前例は横位。**Ⅲ期**—久原小学校内J1号埋設土器(17図2)(東京)。正位。**Ⅳ期**—雅楽谷13号土壌(9図6)(埼玉)。正位。

b—他の土器と複数個体出土例 **Ⅰ期**—ささら1号土壌(9図9)(埼玉)。**Ⅱ期**—神明61号土壌(9図10)(埼玉)・坂詰35号土壌(19図13)(群馬)。神明例は算盤玉形の注口土器と深鉢形土器の大形破片が伴出。坂詰35号土壌では、開口部に底部を欠損した注口土器が、礫及び石皿・磨石30点と共に出土し、土壌底面には底部を欠いた深鉢形土器が据え置かれた状態で出土。**Ⅳ期**—雅楽谷5号土壌(9図7)(埼玉)。注口土器1・浅鉢形土器2・台付浅鉢形土器1・台付鉢形土器1・深鉢形土器5点が伴出。

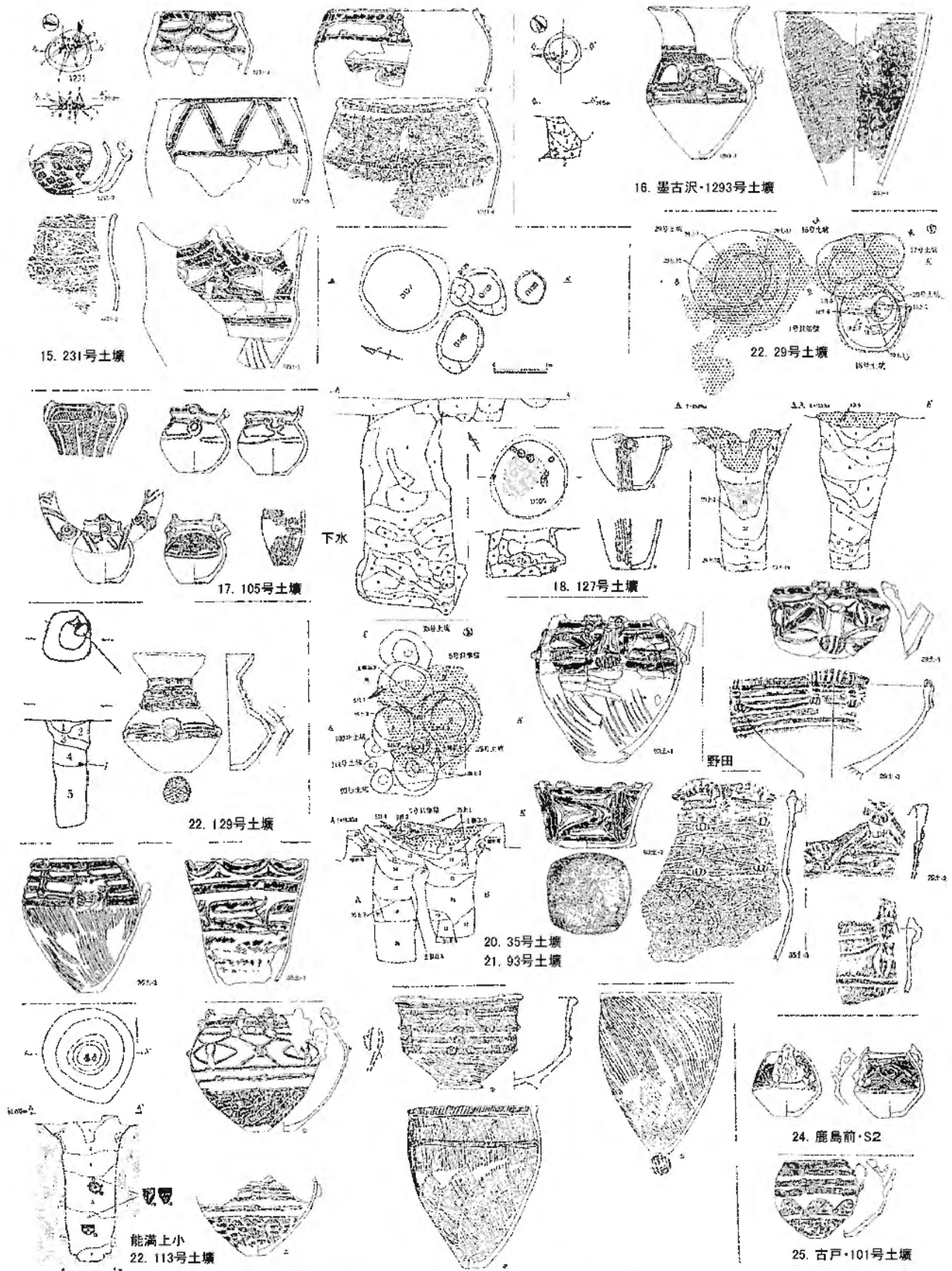
2—浅い土壌からの出土例 **a—単独出土** **Ⅰ期**—聖山公園134号土壌(13図4)(栃木)。加曽利E4式の浅鉢形土器が正位で出土。**Ⅱ期**—祇園原71号土壌(3図2)・岩名47号土壌(3図4)・小菅法華塚Ⅱ4号土壌(3図5)(千葉)・棚谷5号土壌(9図13)・入波沢西1号土壌(9図14)・明神前134号土壌・高井東71号土壌(9図5)(埼玉)・中島D185(19図10)・阿佐実(9次)7号土壌(群馬)。明神前例は底部穿孔。高井東・阿佐実例は墓壇の副葬品。**V期**—馬場小室山12号土壌(11図25)(埼玉)。

b—他の土器と複数個体出土例 **Ⅰ期**—羽沢大道39号土壌(15図7)(神奈川)。**Ⅱ期**—内野第1D185(3図10)・曾谷27地点2号土壌(3図14)(千葉)・神明172号土壌(9図11)(埼玉)・上り戸SK1419(13図11)・小鍋前SK367(13図6)・荻ノ平SK24(10図10)・三輪仲町SK161(14図14)(栃木)・岡上丸山(15図8)・篠原大原北5号土壌(15図6)(神奈川)・東山J地点3号土壌(17図6)(東京)・白倉B区148号土壌(20図14)・同150号土壌(20図15)・柳田35号土壌(20図16)・亜佐美(6次)327号土壌・陣馬11号土壌(群馬)。神明172号土壌からは、注口土器と小型深鉢形土器が据え置かれた状態で出土。179号土壌からは、注口土器の出土はないが「切断蓋付土器」と注口土器に類似する浅鉢形土器が同様の状態で出土している。三輪仲町例は細かい破片で出土。柳田35号土壌からは、注口土器1・深鉢形土器3点が伴出。岡上丸山と亜佐美(6次)327号土壌からは小形深鉢形土器とセットで出土。**Ⅲ期**—前田村325号土壌(7図6)(茨城)。**V期**—壘古沢1231号土壌(4図15)(千葉)・雅楽谷26号土壌(9図8)・東北原11号土壌(9図15)(埼玉)。雅楽谷26号土壌からは、注口土器1・浅鉢形土器1・深鉢形土器2点が出土。

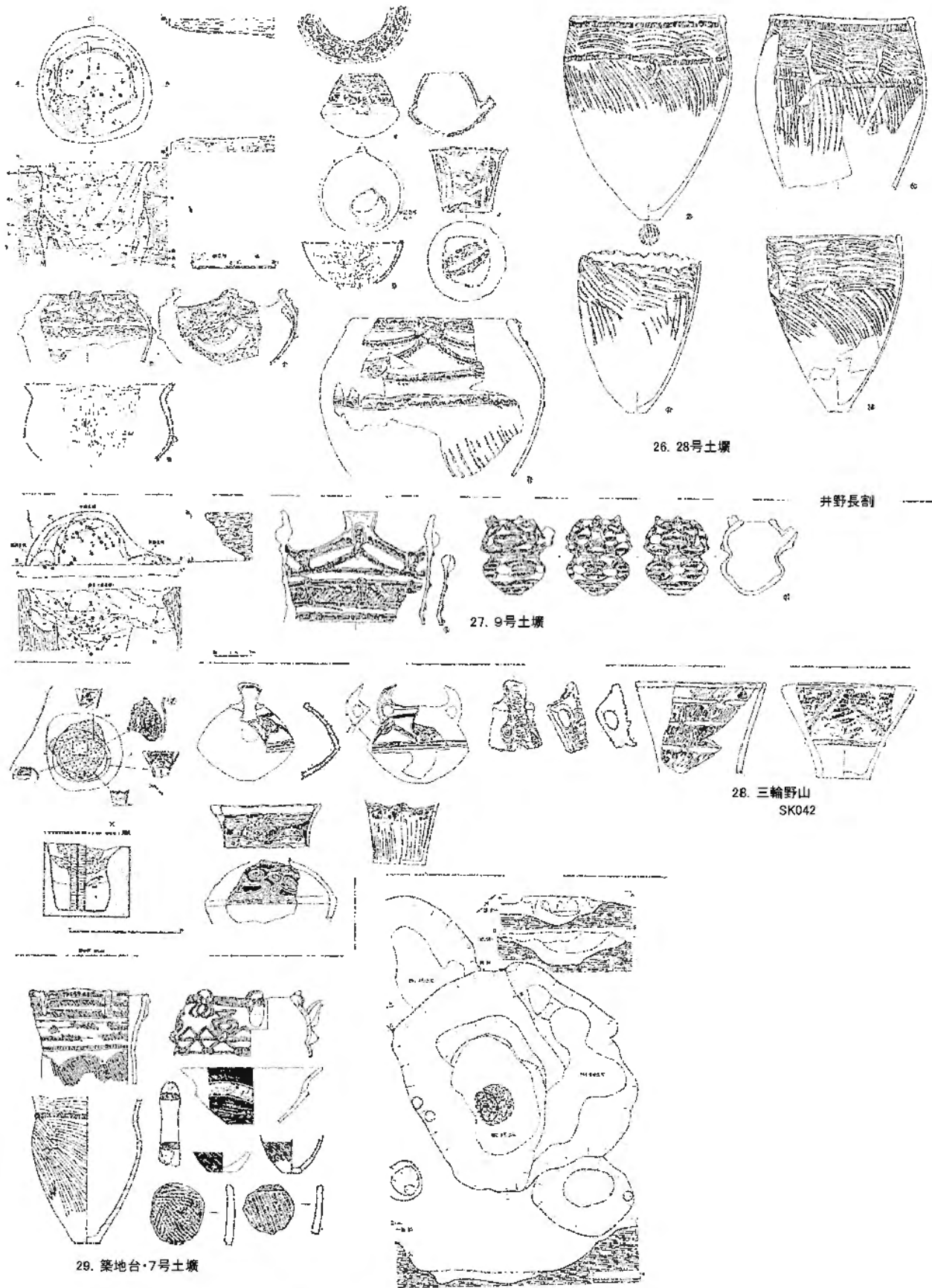
3—小竪穴からの出土例 **a—単独出土** **Ⅰ期**—江原台321号土壌(3図12)(千葉)。**Ⅱ期**—小場SK9



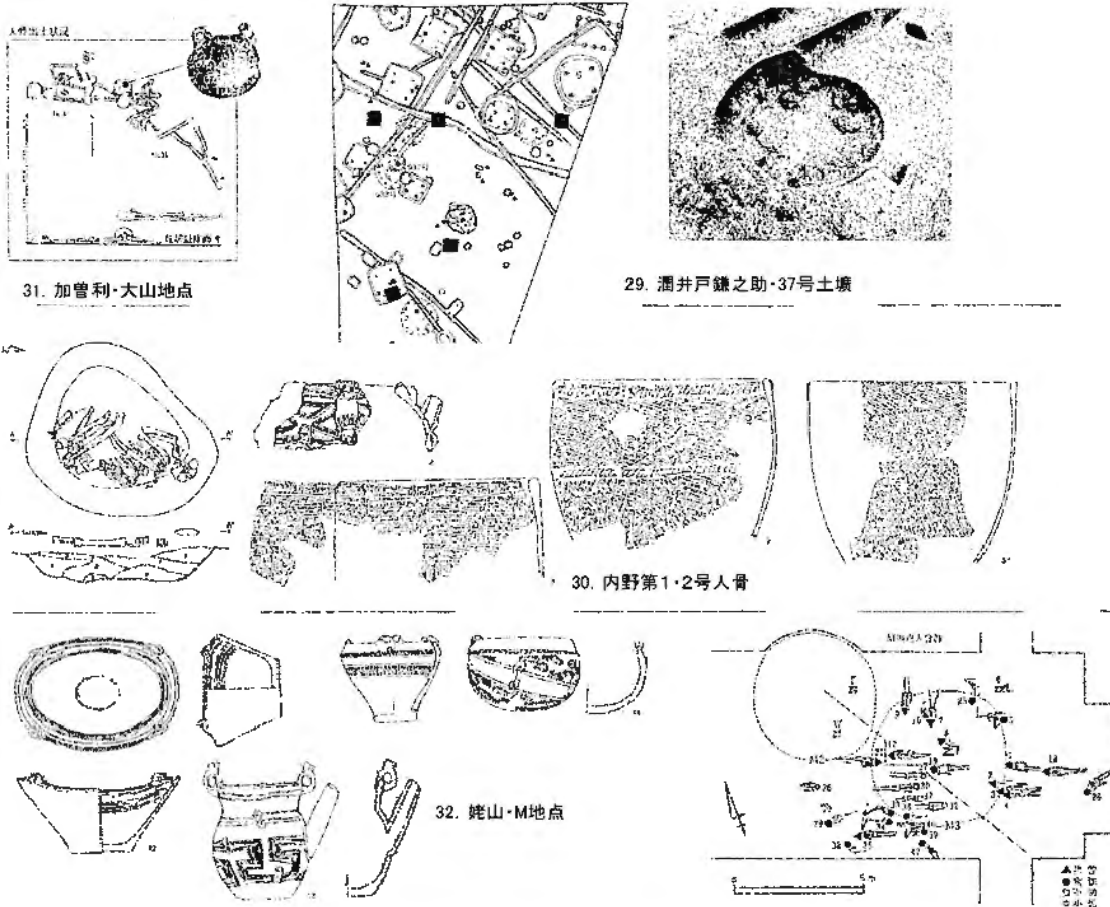
第3図 注口土器集成図—千葉県(2)—



第4図 注口土器集成図—千葉県(2)—



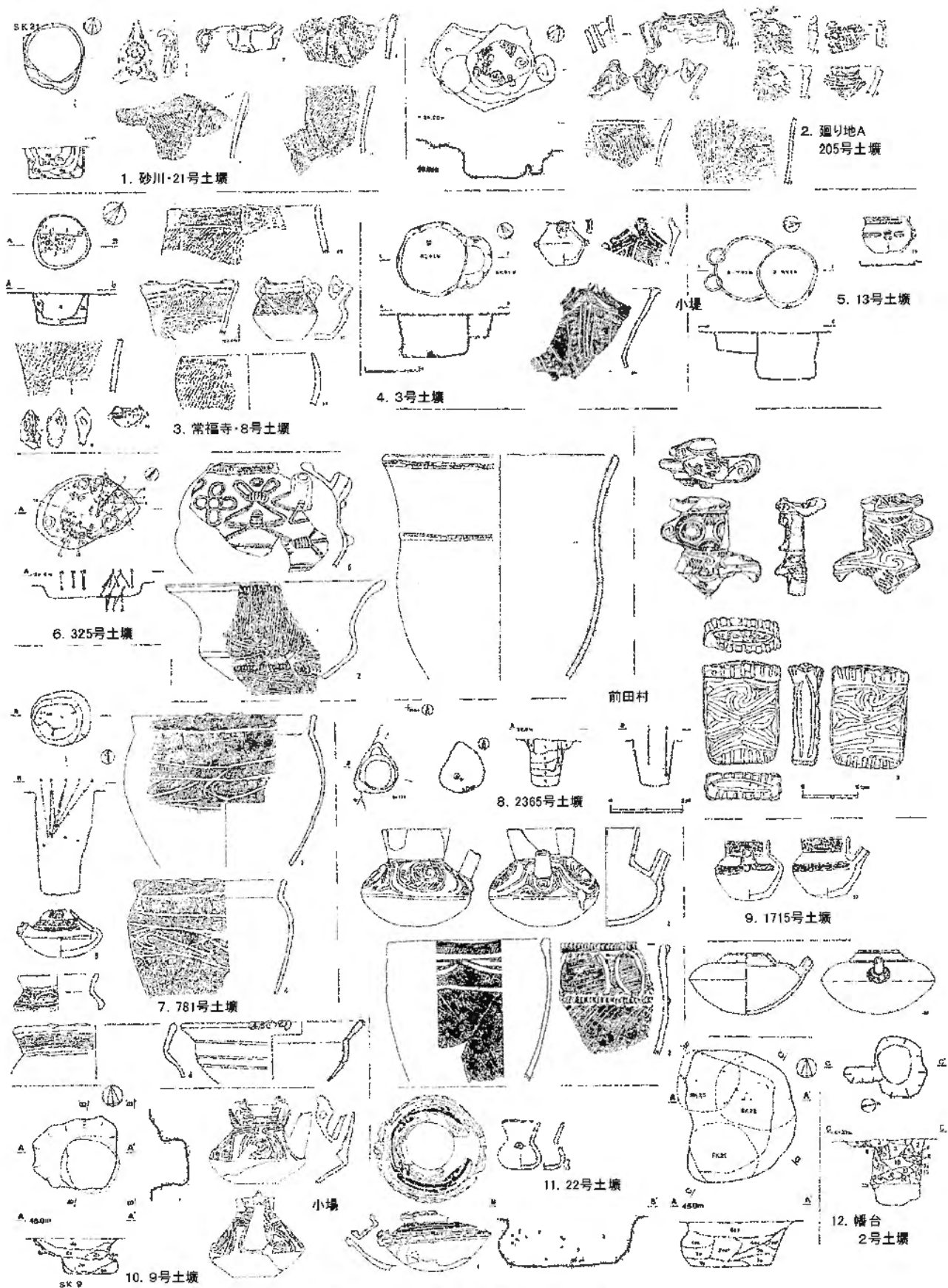
第5図 注口土器集成図—千葉県(3)—



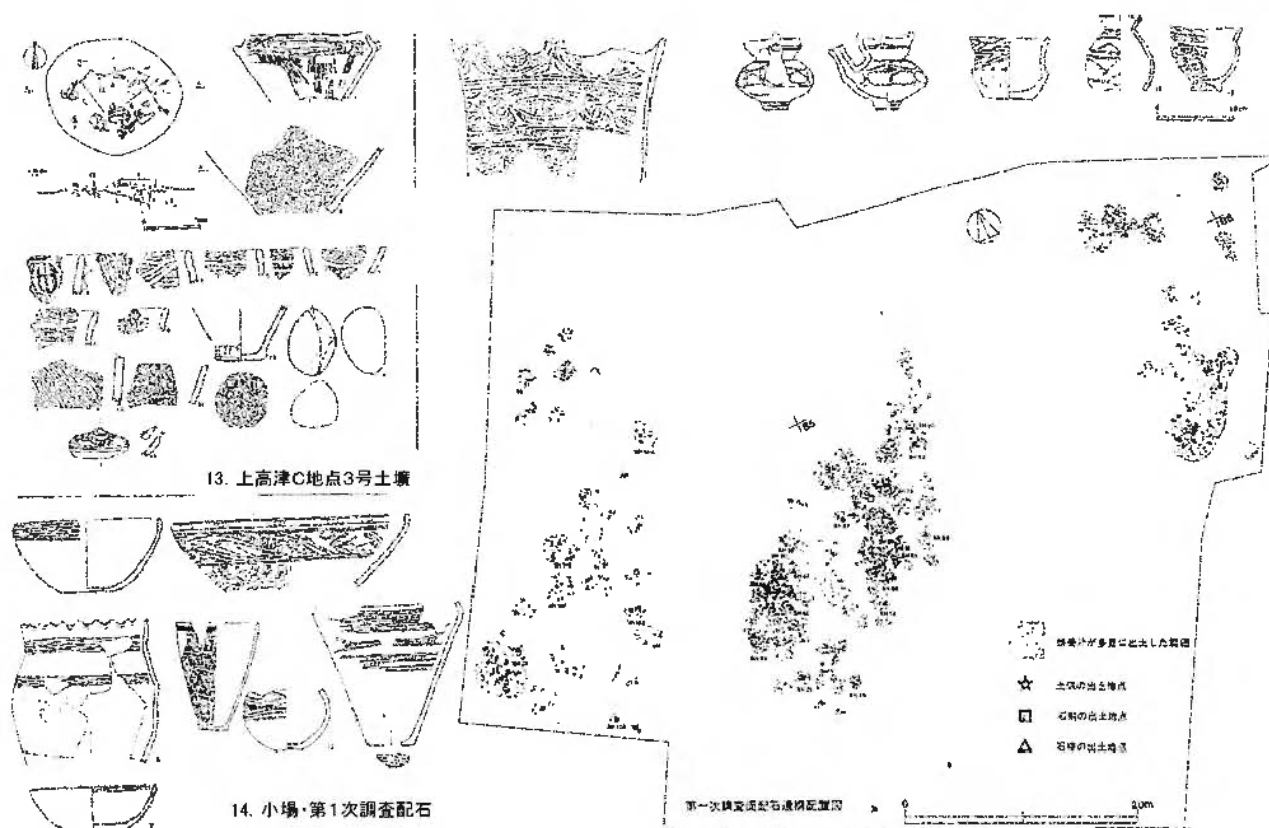
第6図 注口土器集成図—千葉県(4)—

第1表 注口土器出土状況分類表

A 掘込みを伴わない	1 石斧内蔵	a 単独出土	ア 正位 イ 逆位 ウ 横位 エ 斜位	B 土壇出土	5 群集墓から出土	a 単独出土	ア 正位 イ 逆位 ウ 横位 エ 斜位		
		2 埋設土器	a 単独出土			ア 正位 イ 逆位 ウ 横位 エ 斜位	b 複数出土		
			b 複数出土				a 単独出土	ア 正位 イ 逆位 ウ 横位 エ 斜位	
	3 包含層出土	a 単独出土	ア 正位 イ 逆位 ウ 横位 エ 斜位		b 複数出土		6 配石遺構下の土壇	a 単独出土	ア 正位 イ 逆位 ウ 横位 エ 斜位
		b 複数出土			a 単独出土	ア 正位 イ 逆位 ウ 横位 エ 斜位			
			b 複数出土			b 複数出土			
	B 土壇出土	1 注口土器より一回り大きな土壇(屋外埋設土器)	a 単独出土		ア 正位 イ 逆位 ウ 横位 エ 斜位	8 集石伴う例	a 単独出土	ア 正位 イ 逆位 ウ 横位 エ 斜位	
			b 複数出土				b 複数出土		
					2 浅い土壇		a 単独出土	ア 正位 イ 逆位 ウ 横位 エ 斜位	9 人骨・獣骨に伴う
b 複数出土			b 複数出土						
		3 小堅穴状の土壇	a 単独出土	ア 正位 イ 逆位 ウ 横位 エ 斜位			C 配石遺構から出土		
b 複数出土				D 遺物集中区から出土					
	4 井戸状の土壇		a 単独出土	ア 正位 イ 逆位 ウ 横位 エ 斜位	E 埋没谷・旧河道				
b 複数出土									



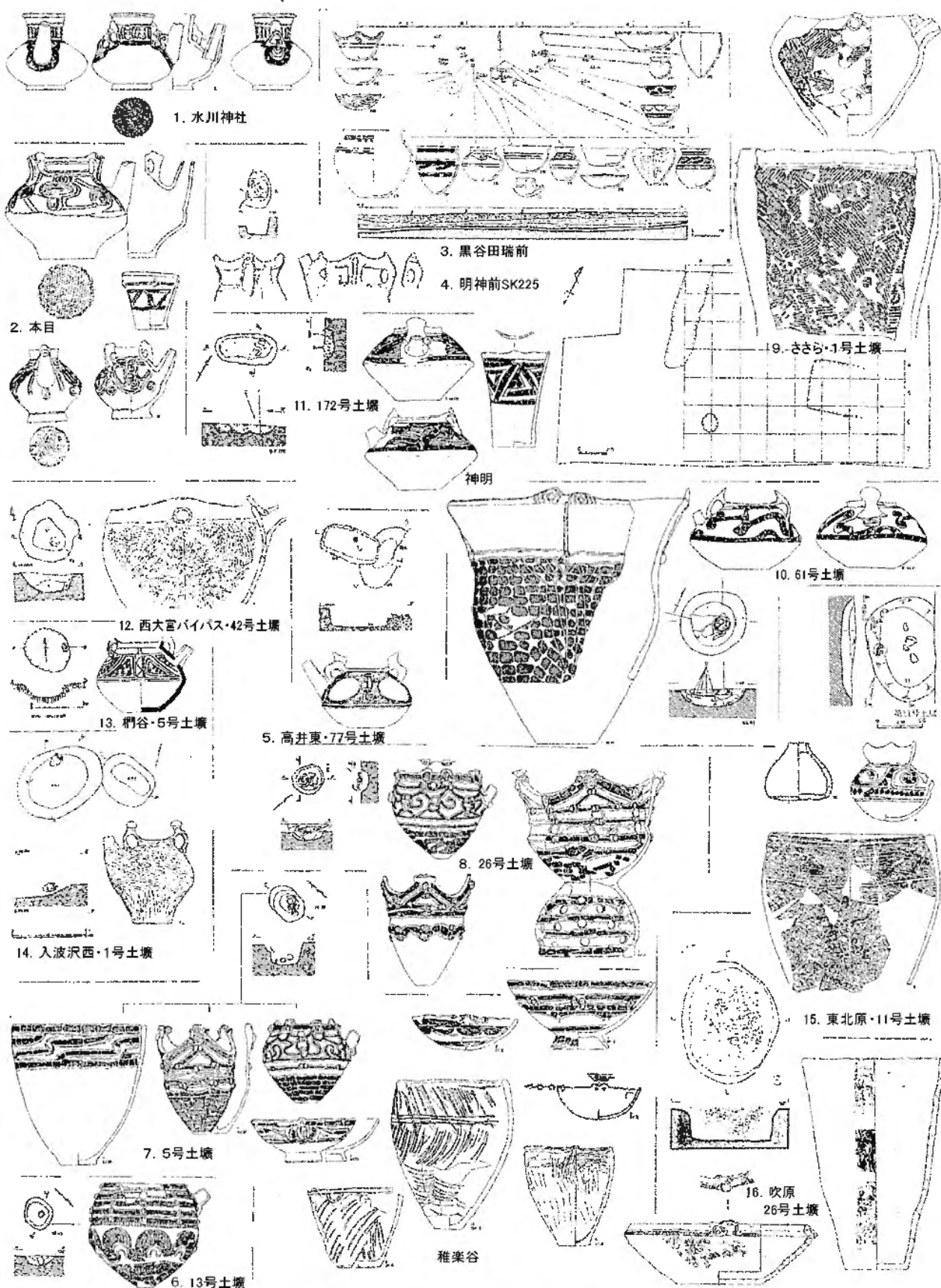
第7图 注口土器集成图—茨城县(1)—



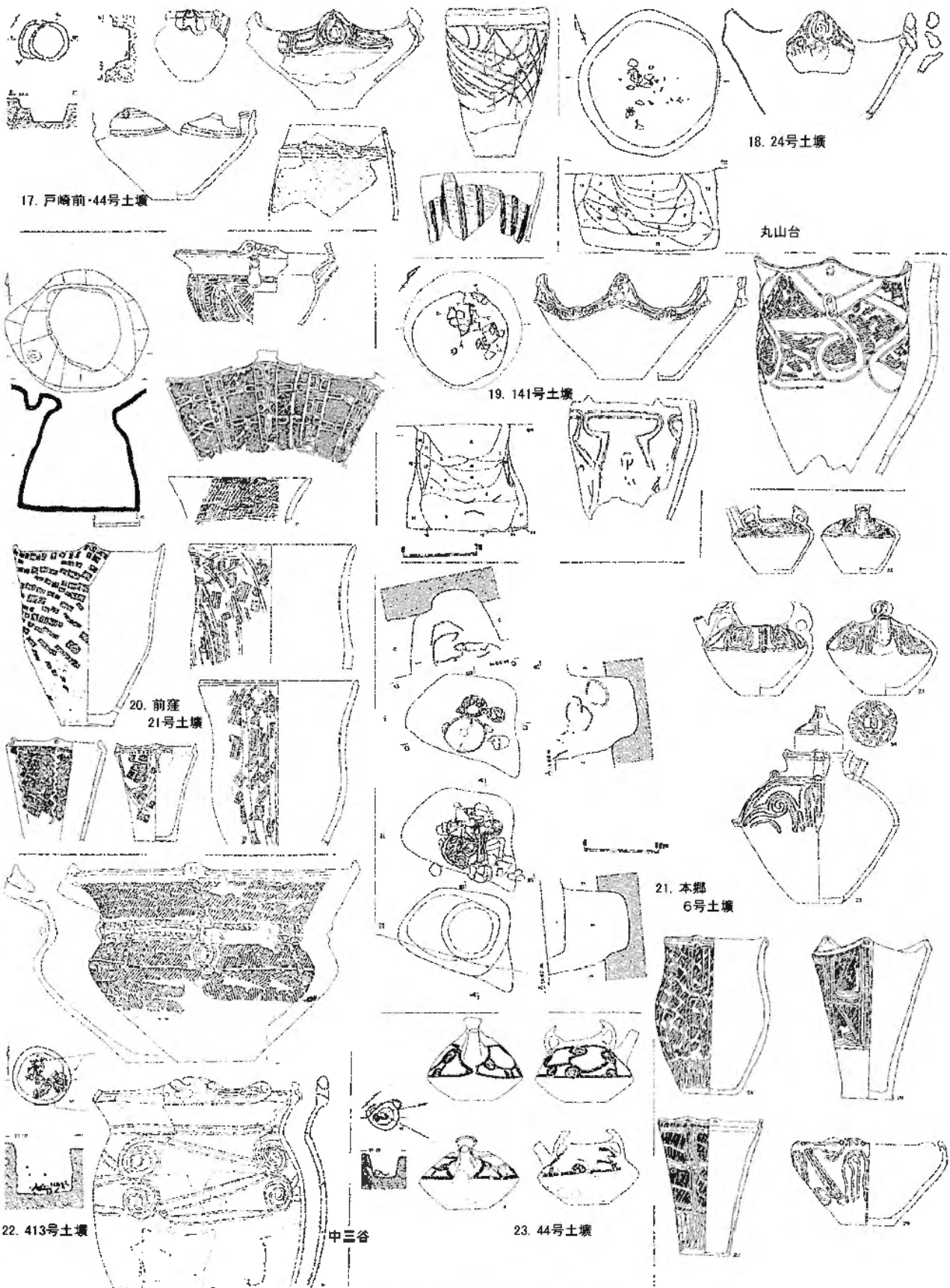
第8図 注口土器集成図—茨城県(2)—

(7図10)(茨城)・槻沢SK333(14図15)(栃木)・東山K地点1号土壌(17図7)(東京)・中島D4(19図11)・同D373(19図12)・三原田2-I13-Cpit(20図17)・同3-P22-Dpit(20図18)・鳥取福蔵寺ⅡD123(20図20)(群馬)。Ⅲ期—馬場小室山8号土壌(11図26)(埼玉)。

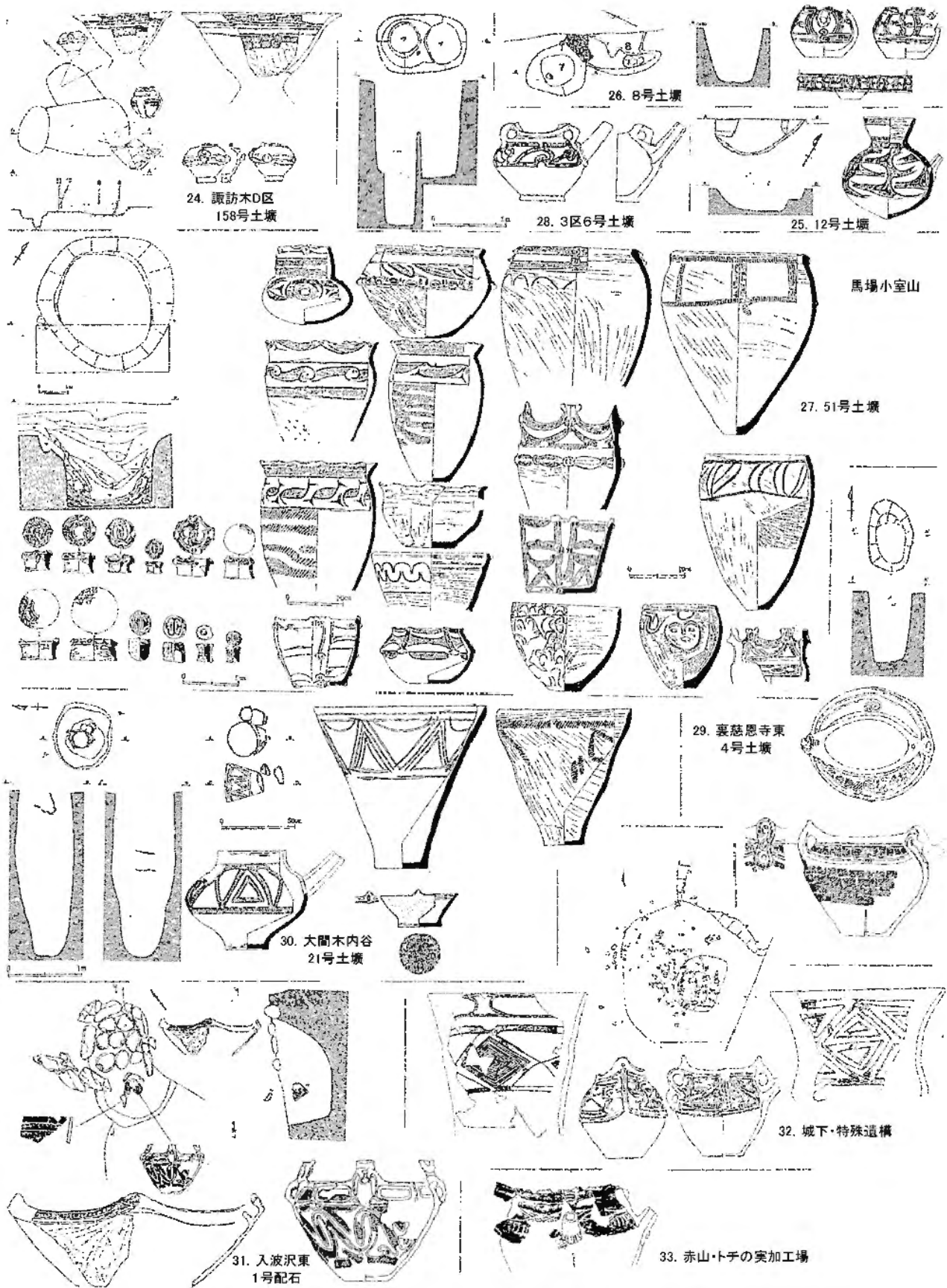
b—他の土器と複数個体出土例 **I期**—六崎貴船31号土壌(3図13)(千葉)・砂川21号土壌(7図1)(茨城)・御城田SK750(14図8)・梨木平P18(14図17)(栃木)。梨木平例は、加曾利E1式期新段階。六崎貴船例は、加曾利E4式の瓢形土器。**Ⅱ期**—武士83号土壌(3図7)・内野第1D402(3図11)・下水105号土壌(4図17)・三輪野山SK042(5図28)(千葉)・小堤13号土壌(7図5)・巡り地A250号土壌(7図2)・常福寺8号土壌(7図3)(茨城)・吹原26号土壌(9図16)・戸崎前44号土壌(10図17)・丸山台24号土壌(10図18)・同141号土壌(10図19)・前窪21号土壌(10図20)・本郷6号土壌(10図21)・中山谷41号土壌(10図22)・同44号土壌(10図23)(埼玉)・小鍋前SK907(13図7)・同SK927(13図8)・同SK982(13図9)・上り戸SK2067(13図12)・槻沢SK166(14図16)・野沢石塚SK103(14図19)・同SK301(14図20)・藤岡神社S429(14図21)(栃木)・帷子峯54号土壌(15図2)(神奈川)・和田百草園(17図5)(東京)。前窪21号土壌では注口土器1・深鉢形土器8点が出土。中山谷41号土壌では底面から堀之内2式期の注口土器2点が出土。本郷6号土壌では注口土器3・深鉢形土器8・鉢形土器1点が共伴。帷子峯54号土壌は、底面から注口土器1・小型土器4・ミニチュア土器6点・石棒様土製品が出土。和田百草例は柄鏡形住居前面の土壌底面から出土。**Ⅳ期**—墨古沢1231土壌(4図16)(千葉)・諏訪木58号土壌(11図24)(埼玉)。**Ⅴ期**—小堤3号土壌(7図4)・小場SK22(7図11)・幡台2号土壌(7図12)(茨城)・馬場小室山51号土壌



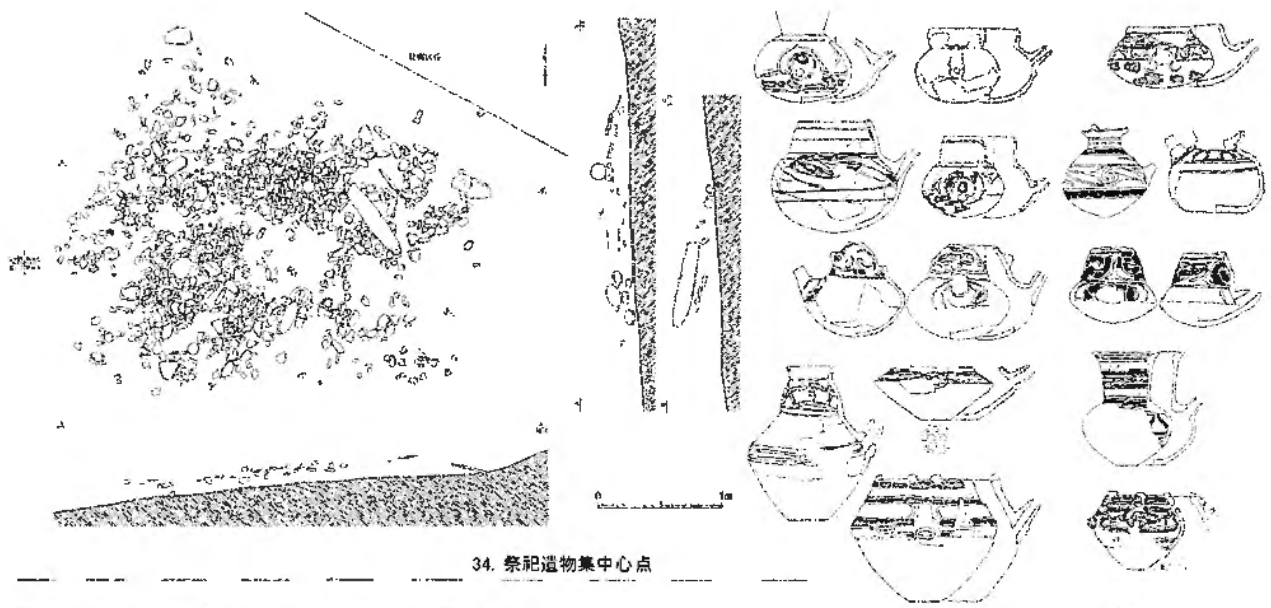
第9図 注口土器集成図—埼玉県(1)—



第10図 注口土器集成図—埼玉県(2)—

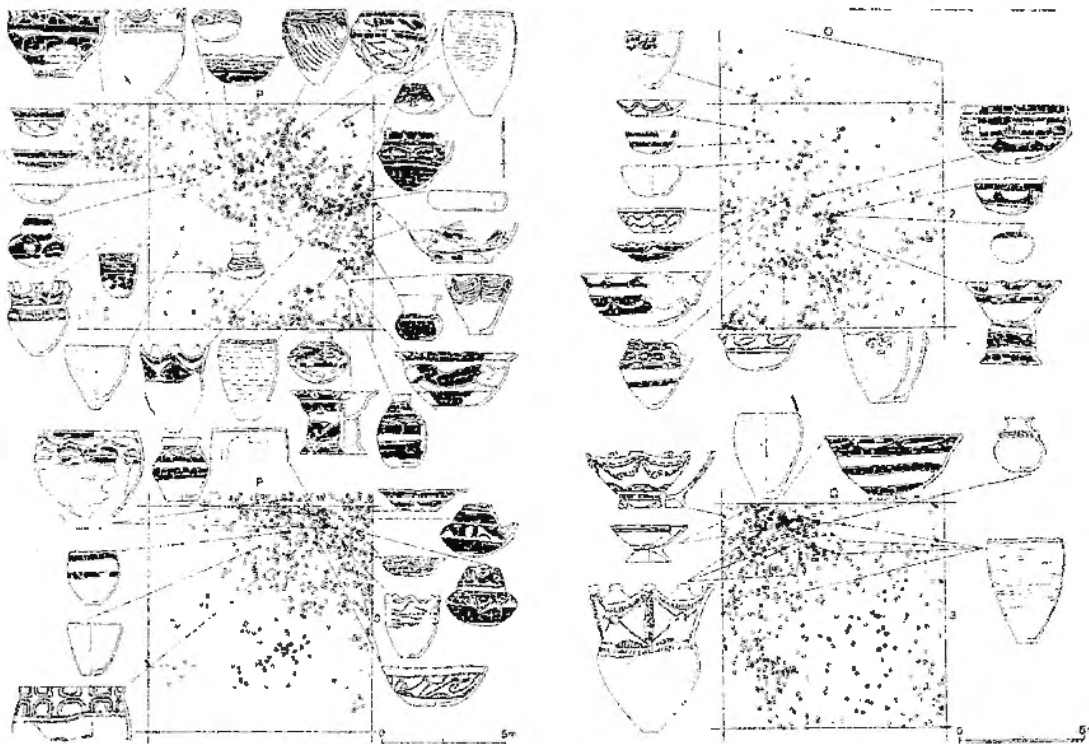


第11図 注口土器集成図—埼玉県(3)—



34. 祭祀遺物集中心点

赤城

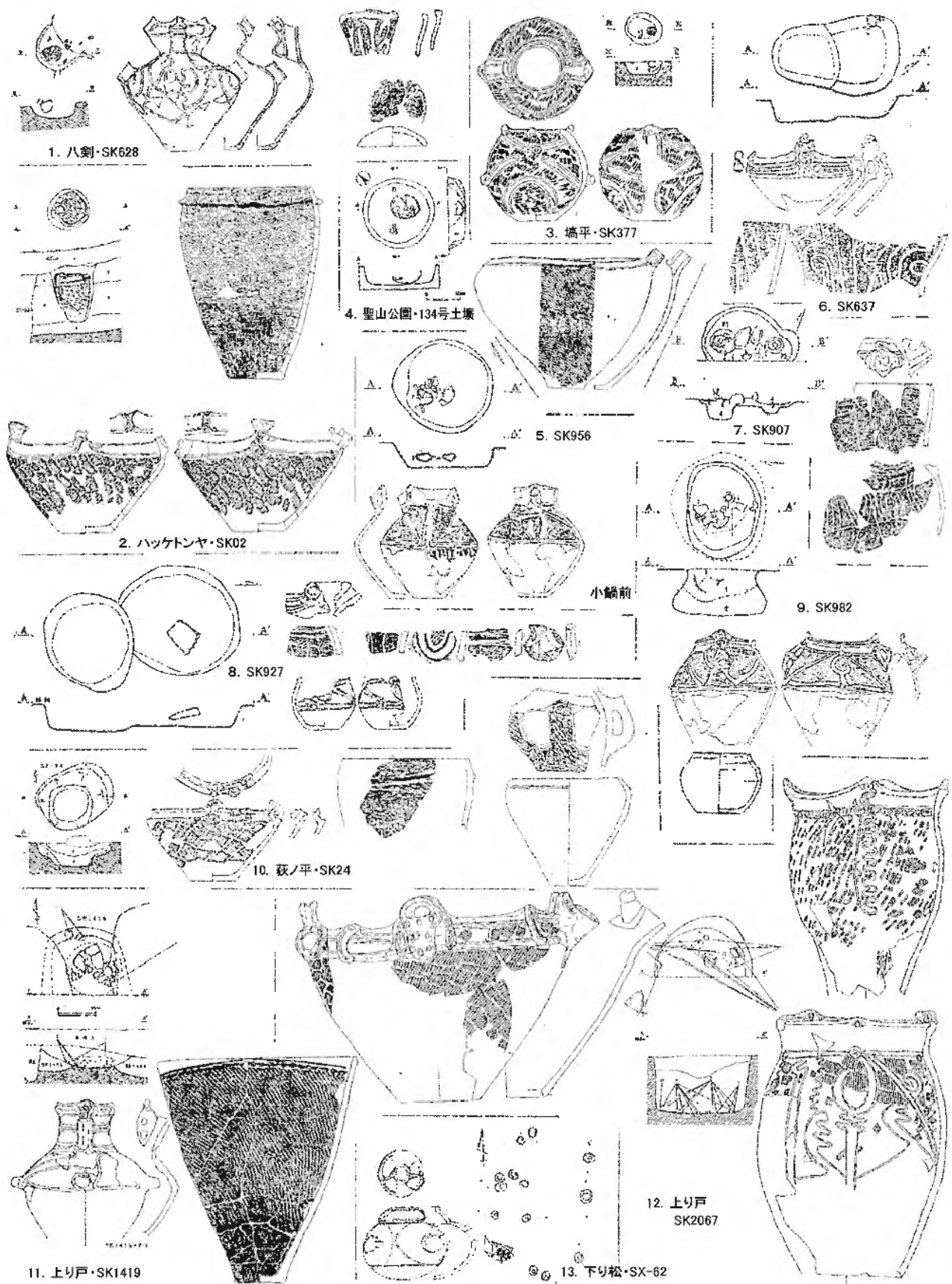


35. 完形土器集中心点

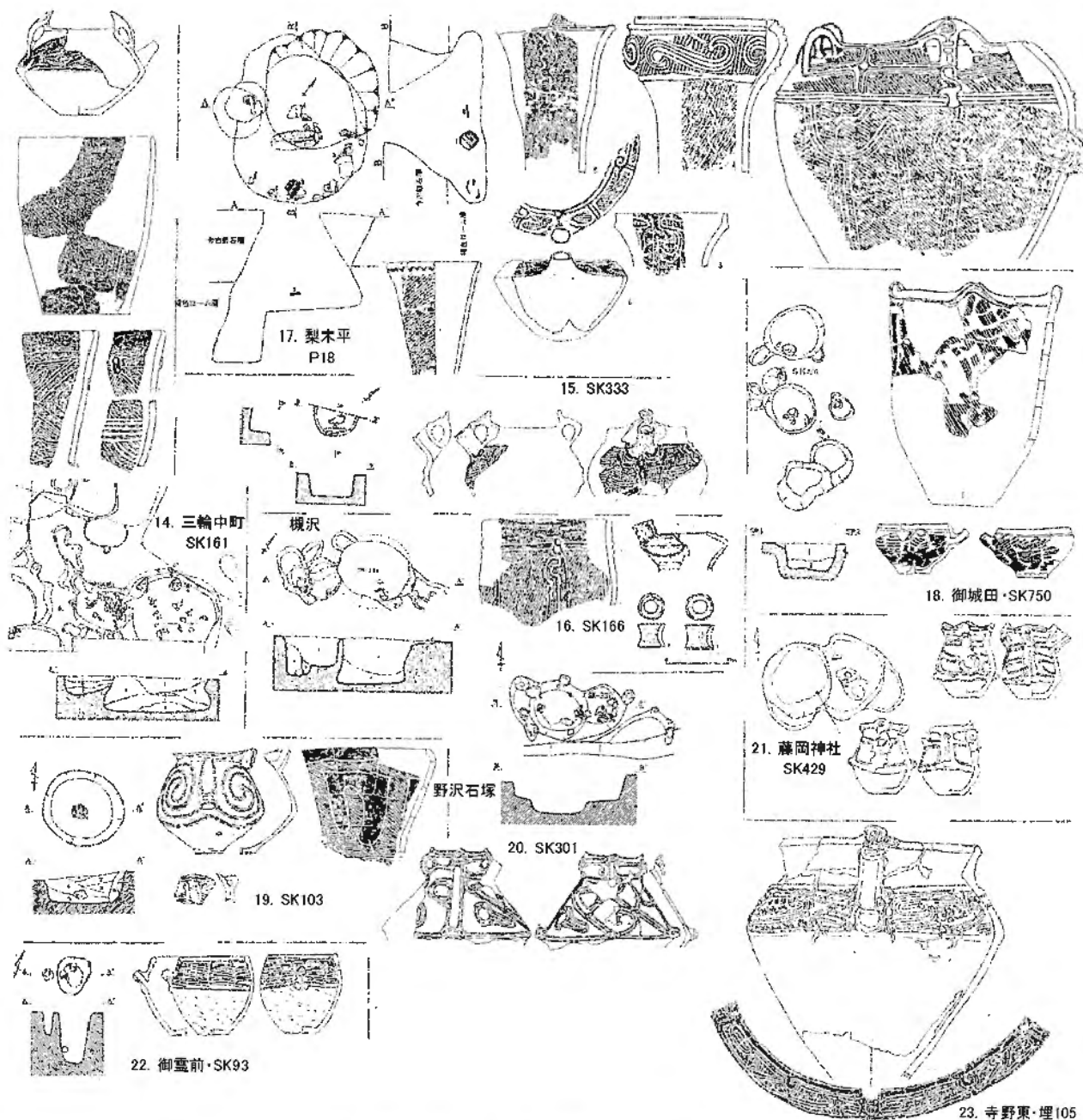
第12図 注口土器集成図—埼玉県(4)—

(11 図 27) (埼玉)。馬場小室山 51 号土壙は、直径 4 m 前後の大型土壙で、灰層と炭化物層・獣骨層から、人面付土器を含む土器 38 個体と耳飾 15 点が出土。

4-井戸状土壙からの出土例 a-単独出土 II 期-裏慈恩寺東 4 号土壙(11 図 29)・馬場小室山 3 区 6 号土壙(11 図 28) (埼玉)。III 期-御霊前 S K 93 (14 図 22) (栃木)。V 期-祇園原 216 号土壙(3 図 3) (千葉)。b-他の土器と複数個体出土例 II 期-武士 86 号土壙(3 図 8)・下水 127 号土壙(4 図 18) (千葉)・大間木内谷 21 号土壙(11 図 30) (埼玉)。III 期-野田 129 号土壙(4 図 19) (千葉)。IV 期-野田 35 号土壙(4 図



第13図 注口土器集成図—栃木県(1)—



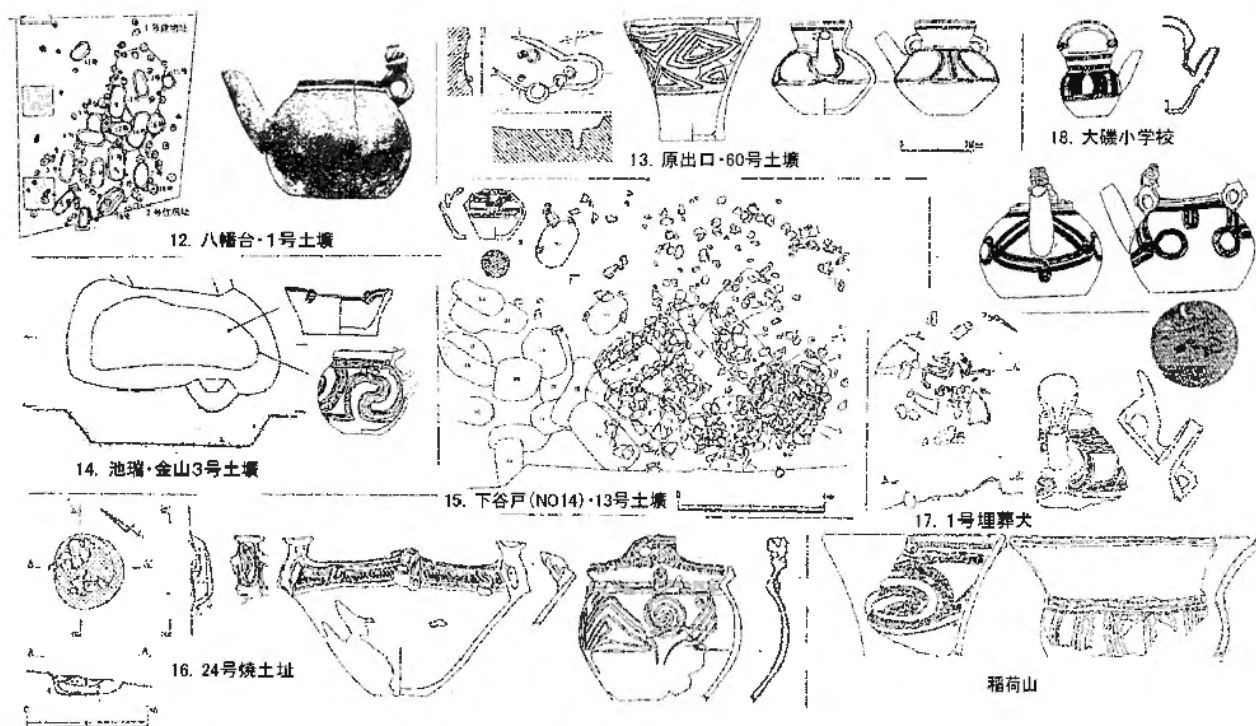
第14図 注口土器集成図—栃木県(2)—

20)・同93号土壙(4図21)・能満上小113号土壙(4図23)・井野長割9号土壙(4図27)(千葉)。能満上小13号土壙は深さ2.61mで、注口土器1・深鉢形土器3・台付鉢形土器1点が出土。**V期**—野田29号土壙(4図22)・井野長割28号土壙(5図26)(千葉)・前田村781号土壙(7図7)・同2365号土壙(7図8)(茨城)。井野長割28号土壙からは、注口土器1・深鉢形土器5・鉢形土器4・角底形土器1点が出土。馬場小室山51号土壙同様に灰層と炭化物層が検出されている。注口土器は底部穿孔の大洞系土器。

5—群集墓からの出土例 **a—単独出土** **Ⅱ期**—小丸102号土壙・同105号土壙(15図9)・西ノ谷P40(15図11)(神奈川)・久ヶ原小学校内J13号土壙(17図3)・同J14号土壙(17図4)(東京)。**Ⅲ期**—八幡台1号土壙(16図2)(神奈川)・なすな原310号土壙(17図9)・同377号土壙(17図10)(東京)。八幡台遺跡では底面が



第15図 注口土器集成図—神奈川県(1)—



第16図 注口土器集成図—神奈川県(2)—

ら加曾利B式の注口土器が正位の状態で出土。5号土壇からは耳栓が出土、6号土壇底面では高濃度のリン酸が検出されている。

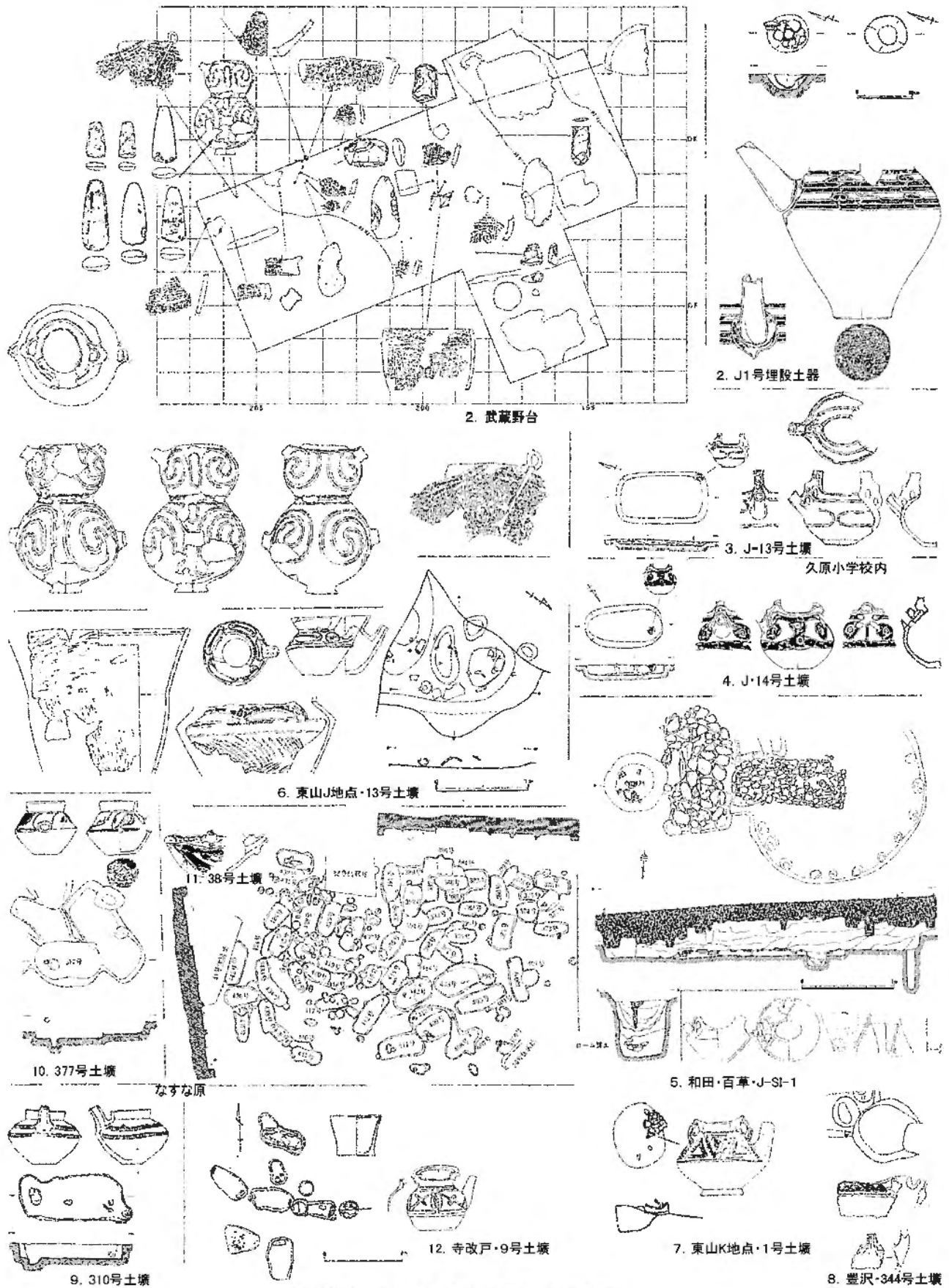
b—他の土器と複数個体出土例 **Ⅱ期**—小丸96号土壇(15図10)・原出口60号土壇(16図13)(神奈川)。小丸96号土壇ではこの他に、7号・26号・29号土壇から小型土器が出土。原出口60号土壇では堀之内2式の小型深鉢形土器と共伴。**Ⅲ期**—池端金山3号土壇(16図14)・華蔵台3号土壇(神奈川)・寺改戸9号土壇(17図12)・野津田上の原H42号土壇(18図13)・同H48号土壇(18図14)・同J66号土壇(18図15)・同J69号土壇(18図16)・N4号土壇(18図17)(東京)。**V期**—なすな原383号土壇(18図11)(東京)。

6—配石遺構の土壇からの出土例 **Ⅱ期**—入波沢東1号配石(11図31)(埼玉)。**Ⅲ期**—下矢戸13号土壇(16図5)(神奈川)・田端(18図18)・なすな原413号土壇(18図19)(東京)・深沢16号土壇(20図21)・五料野ヶ久保2号敷石(20図25)・今井東平(群馬)。なすな原例は、配石下の土壇で、上面に石棒6・石剣5・独鈷石2点が出土。深沢例はC区配石遺構の北側に位置し、注口付双口土器が出土。今井東平例では、配石遺構下の埋葬施設を思わせる石囲い施設から、極めて類似する2個体の加曾利B式の注口土器がセットで出土。**Ⅳ期**—五反目10号石棺墓(神奈川)。歯・骨小片の他に土製耳飾が伴出。

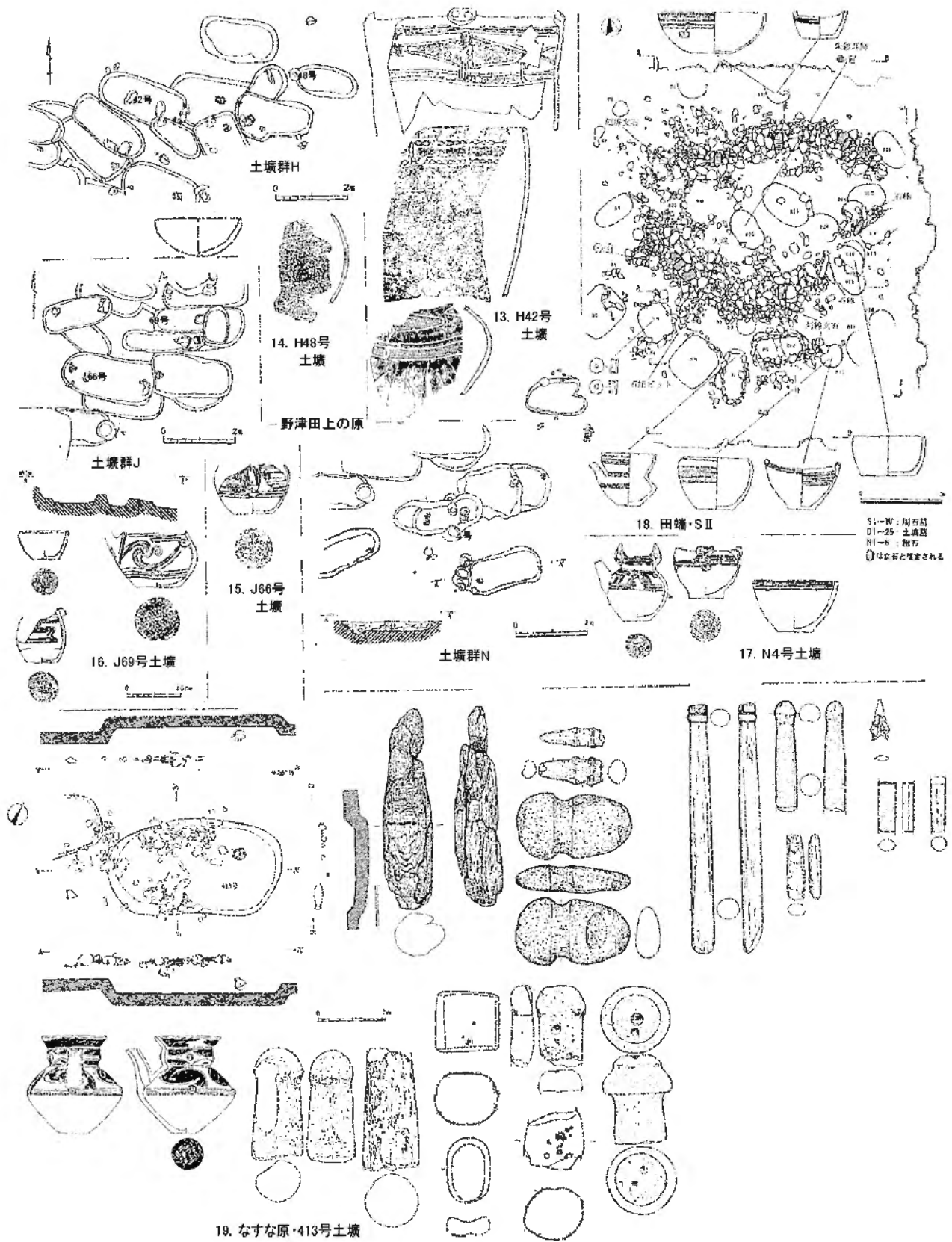
7—焼土を伴う例 **Ⅱ期**—稲荷山24号焼土址(16図16)(神奈川)。焼土上に浅鉢形注口土器が載る。

8—集石からの出土例 **I期**—高速2号線(N6)1号集石遺構(神奈川)。

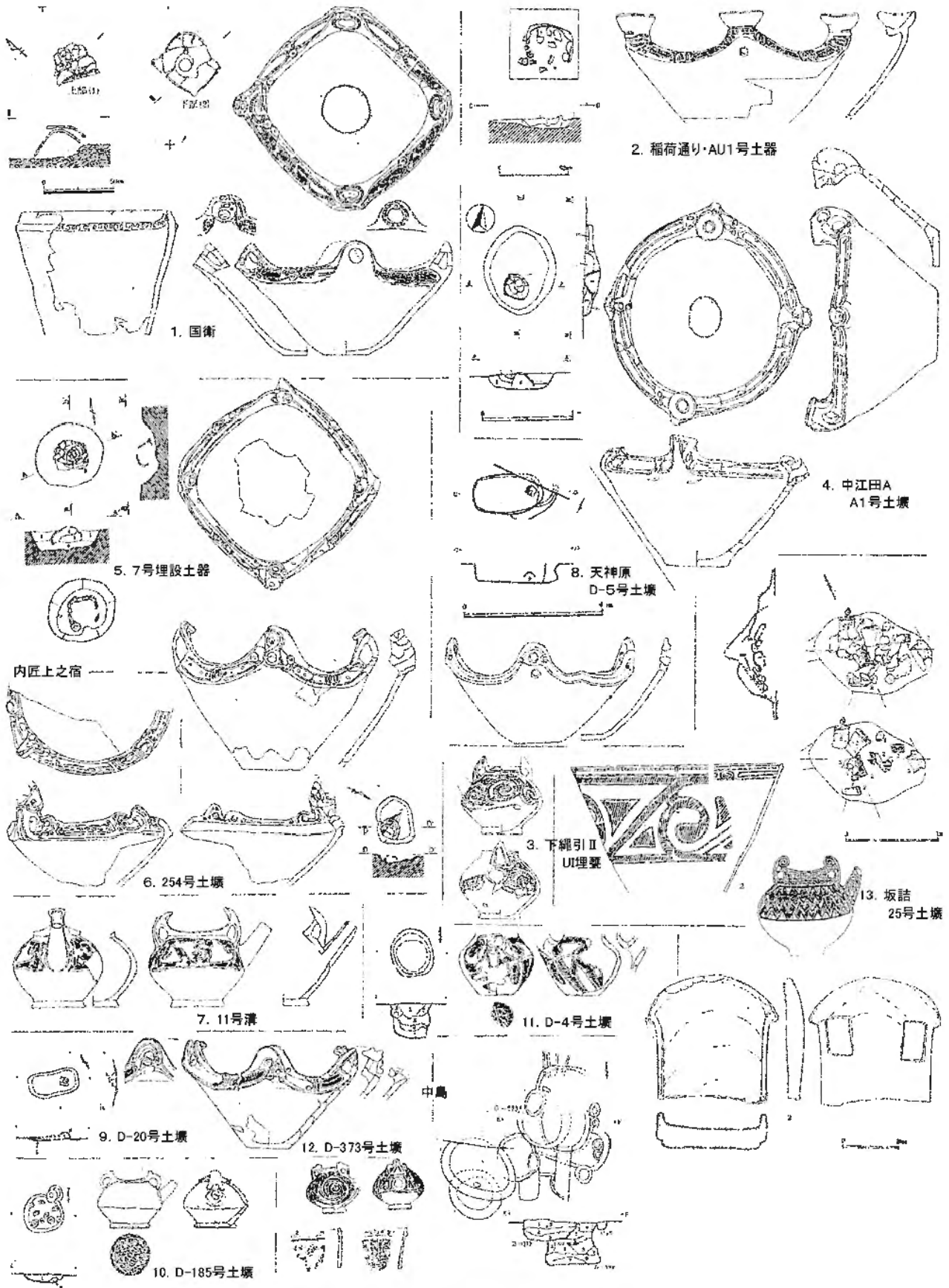
9—人骨・獣骨に伴う出土例 a—人骨に伴うもの **ア—土壇より出土** **Ⅱ期**—閨井戸鎌之助37号土壇(5図29)(千葉)。**Ⅳ期**—内野第1(6図30)(千葉)。閨井戸鎌之助例は、円形の土壇から堀之内類型の注口土器が出土。内野第1例は、屈葬の2号人骨骨盤下から、安行2式の注口部破片が出土。周辺からは黒曜石の細かいチップが多く出土している。他に、人骨に伴う例として、大山柏調査による加曾利貝塚例(6図31)と、明治大学調査の姥山貝塚M地点例(6図32)があるが、共に住居床面からの出土である。



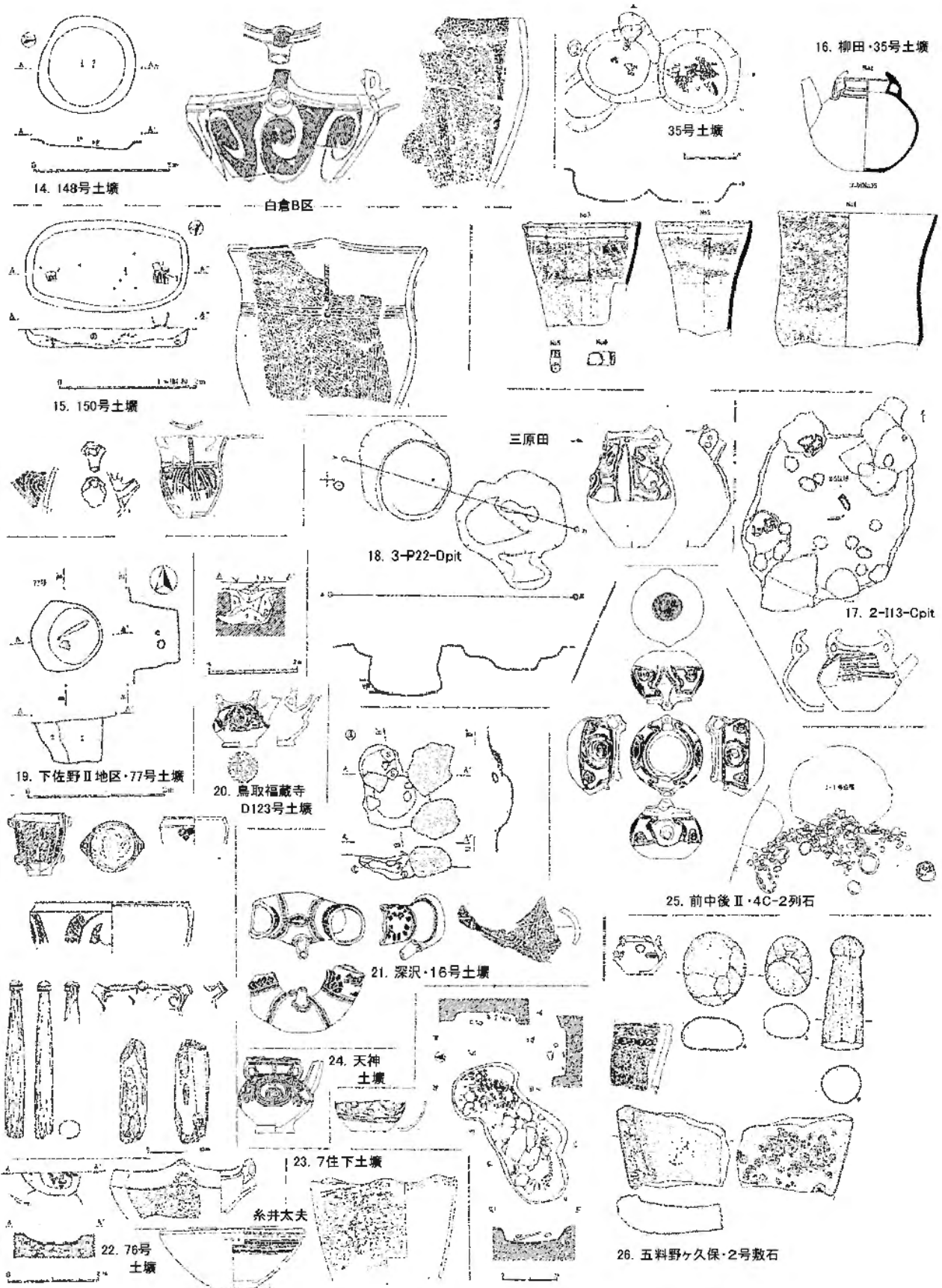
第17図 注口土器集成図—東京都(1)—



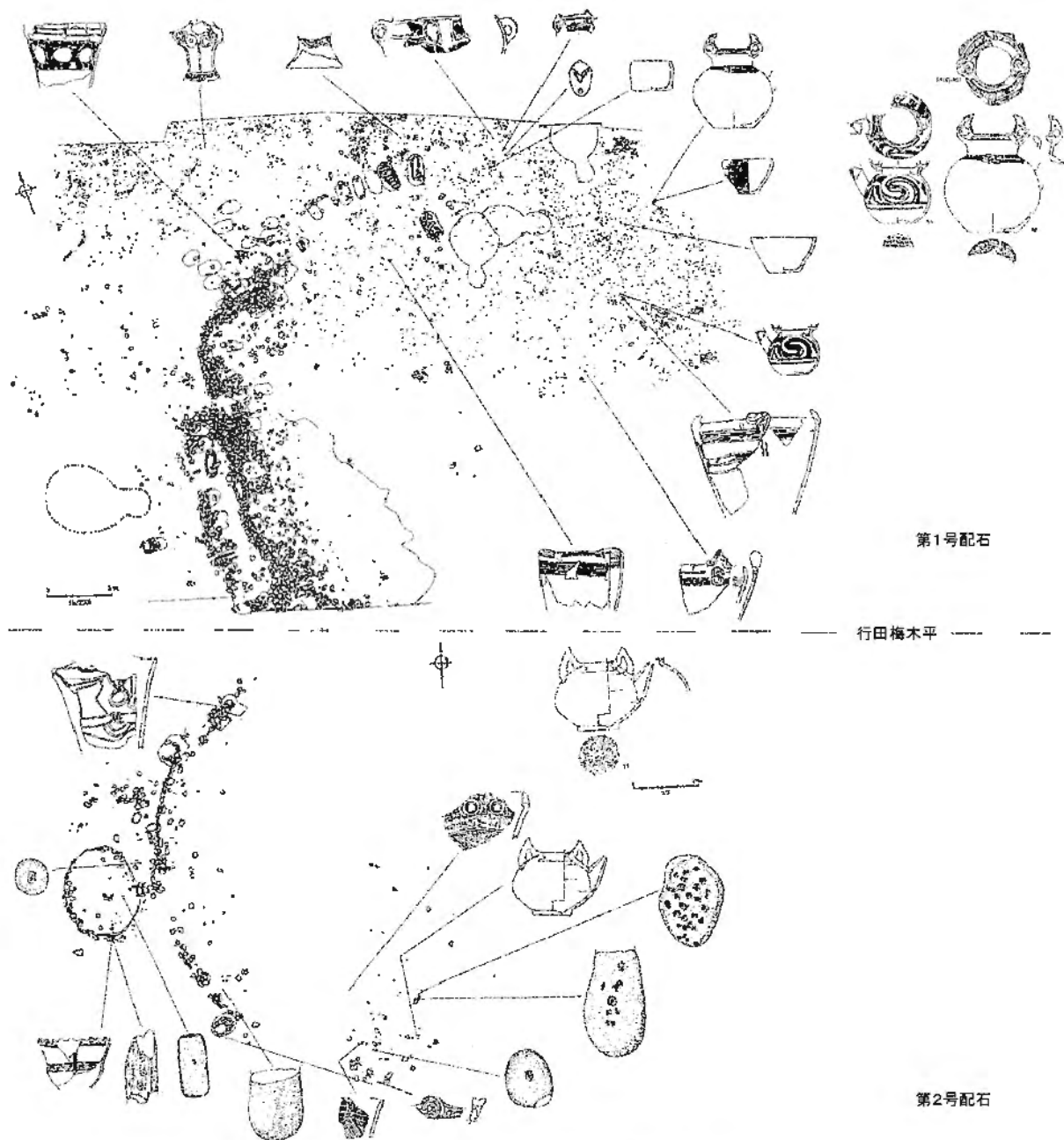
第18図 注口土器集成図-東京都(2)-



第19図 注口土器集成図—群馬県(1)—



第20図 注口土器集成図—群馬県(2)—



第21図 注口土器集成図—群馬県(3)—

b—獣骨に伴うもの II期—上高津C地点3号土壙(8図13)(茨城)・稲荷山1号埋葬犬(16図17)(神奈川)。宮本台1号住居(千葉)では、猪頭骨と堀之内2式の注口土器が出土

C—配石遺構からの出土例 II期—前中後II4c-2列石(20図25)・行田梅木平1号配石(21図27)・同2号配石(21図28)(群馬)。前中後II4c-2列石では、弧状列石の中央東脇に据え置かれており、列石の西側には石棺墓・土壙墓が展開する。

D—完形土器・祭祀遺物集中地点 赤城遺跡(20図34・35)(埼玉)。

E—旧河川 諏訪木C区(埼玉)・下田(群馬)。

以上、出土状況別に観てきたが、次に時期毎の流れを追う。I期は、瓢形土器に磨製石斧を内蔵する

第2表 岡東地方の注口土器出土遺構一覧表

県名	遺跡名	遺跡No	時期	図No	分類	文	献
千葉	花輪		埴之内1	Ⅱ 2	Ⅱ B 1 a ア	田中英世	2001 『千葉市花輪貝塚』(財)千葉市文化財調査協会
	寺ノ代	011遺構	埴之内1	Ⅱ 3	Ⅱ A 2 b カ	小林清隆他	2001 『香津市寺ノ代遺跡—県道道路改良に伴う埋蔵文化財調査報告書—』『千葉県文化財センター調査報告第412集』(財)千葉県文化財センター
	株木東	11号土壇	加曾利B	Ⅲ	Ⅲ A 3 b エ	小西・花輪・宮内	1983 『株木B遺跡』『昭和67年度市川東部遺跡発掘調査報告書』市川市教育委員会
	祇園原	71号土壇	埴之内1	Ⅱ 3	Ⅱ B 2 a ア	志沢成規	1999 『祇園原貝塚』『上総国分寺台遺跡調査報告書Ⅴ』(財)市原市文化財センター
	岩名	47号土壇	埴之内1	Ⅱ 3	Ⅱ B 2 a カ	大熊佐智子	2002 『岩名貝塚』『野田市埋蔵文化財調査報告書第22集』野田市教育委員会
	小音法華塚	4号土壇	埴之内1	Ⅱ 3	Ⅱ B 2 a	太田文雄他	1995 『小音法華塚Ⅰ・Ⅱ遺跡』『財団法人印旛郡市文化財センター発掘調査報告書第92集』(財)印旛郡市文化財センター
	武士	806号土壇	埴之内1	Ⅱ 3	Ⅱ B 2 b カ	加納実	1998 『市原市武士遺跡2—稲垣浄水場埋蔵文化財調査報告書—』『千葉県文化財センター調査報告第322集』(財)千葉県文化財センター
	内野第1	D-185	埴之内1	Ⅱ 3	Ⅱ B 2 b カ	田中英世・古谷渉	2001 『内野第1遺跡発掘調査報告書』(財)千葉市文化財調査協会
	曾谷27地点	2号土壇	埴之内1	Ⅱ 3	Ⅱ B 2 b カ	田中英治	1991 『1.曾谷遺跡』『平成2年度市川市内遺跡発掘調査報告書』市川市教育委員会
	墨古沢	1231号土壇	安行3a	V 4	Ⅴ B 2 b	横山仁	2007 『東関東自動車道水戸線沿々井PA埋蔵文化財調査報告書4—沿々井町墨古沢遺跡—』『千葉県教育振興財団調査報告第570集』(財)千葉県教育振興財団
	江原台	321号土壇	加曾利E4	I 3	Ⅰ B 3 a	高田博他	1980 『佐倉市江原古遺跡発掘調査報告書Ⅱ』(財)千葉県文化財センター
	野田	171号土壇	埴之内1	Ⅱ	Ⅱ B 3 a カ	大熊佐智子	2003 『野田貝塚』『野田市埋蔵文化財調査報告書第24集』野田市教育委員会
	六崎倉船	31号土壇	加曾利E4	I 3	Ⅰ B 3 b	中山俊之	2002 『六崎倉船遺跡(第10次)』『財団法人印旛郡市文化財センター発掘調査報告書第194集』(財)印旛郡市文化財センター
	武士	83号土壇	埴之内1	Ⅱ 3	Ⅱ B 3 b カ	加納実	1998 『市原市武士遺跡2—稲垣浄水場埋蔵文化財調査報告書—』『千葉県文化財センター調査報告第322集』(財)千葉県文化財センター
	内野第1	D-402・409	埴之内1	Ⅱ 3	Ⅱ B 3 b カ	田中英世・古谷渉	2001 『内野第1遺跡発掘調査報告書』(財)千葉市文化財調査協会
	下水	105号土壇	埴之内1	Ⅱ 4	Ⅱ B 3 b	設楽博己他	2004 『下水遺跡—第1地点発掘調査報告書—』砂戸市遺跡調査会
	三輪野山	SK 042	埴之内2・2個体	Ⅱ 5	Ⅱ B 3 b	今泉深	2004 『主要地方道松戸野田線沿々井PA埋蔵文化財調査報告書(2)』『千葉県文化財センター調査報告第412集』(財)千葉県文化財センター
	墨古沢	1293号土壇	安行1	Ⅳ 4	Ⅳ B 3 b	横山仁	2007 『東関東自動車道水戸線沿々井PA埋蔵文化財調査報告書4—沿々井町墨古沢遺跡—』『千葉県教育振興財団調査報告第570集』(財)千葉県教育振興財団
	薮地	7号土壇	安行2	Ⅳ 4	Ⅳ B 3 b	折原繁他	1978 『千葉市薮地台貝塚・平山古墳』(財)千葉県文化財センター
	祇園原	216号土壇	安行3a	V 3	Ⅴ B 4 a イ	志沢成規	1999 『祇園原貝塚』『上総国分寺台遺跡調査報告書Ⅴ』(財)市原市文化財センター
	武士	86号土壇	埴之内1	Ⅱ 3	Ⅱ B 4 b	加納実	1998 『市原市武士遺跡2—稲垣浄水場埋蔵文化財調査報告書—』『千葉県文化財センター調査報告第322集』(財)千葉県文化財センター
	武士	248号土壇	埴之内1	Ⅱ 3	Ⅱ B 4 b	加納実	1998 『市原市武士遺跡2—稲垣浄水場埋蔵文化財調査報告書—』『千葉県文化財センター調査報告第322集』(財)千葉県文化財センター
	下水	127号土壇	埴之内1-2個体	Ⅱ 4	Ⅱ B 4 b ウ	設楽博己他	2004 『下水遺跡—第1地点発掘調査報告書—』砂戸市遺跡調査会
	野田貝塚	129号土壇	曾谷・安行1	Ⅲ 4	Ⅲ B 4 b ウ	大熊佐智子	2003 『野田貝塚』『野田市埋蔵文化財調査報告書第24集』野田市教育委員会
	野田	35号土壇	安行2	Ⅳ 4	Ⅳ B 4 b	大熊佐智子	2005 『野田貝塚—第20・22次発掘調査—清水遺跡—』『野田市埋蔵文化財調査報告書第29集』野田市教育委員会
	野田	93号土壇	安行2	Ⅳ 4	Ⅳ B 4 b	大熊佐智子	2005 『野田貝塚—第20・22次発掘調査—清水遺跡—』『野田市埋蔵文化財調査報告書第29集』野田市教育委員会
	野田	29号土壇	安行3a	V 4	Ⅴ B 4 b	大熊佐智子	2005 『野田貝塚—第20・22次発掘調査—清水遺跡—』『野田市埋蔵文化財調査報告書第29集』野田市教育委員会
	能瀬下小	113号土壇	安行2	Ⅳ 4	Ⅳ B 4 b ア	志沢成規	1995 『市原市能瀬下小貝塚』『市原市文化財センター調査報告書第55集』(財)市原市文化財センター
	古戸	101号土壇	安行2	Ⅳ 4	Ⅳ B 4	横山仁	2005 『我孫子市史原始・古代・中世編 図2-63-1』(石田守一氏御教示による)
	井野長割	9号土壇	安行2	Ⅳ 5	Ⅳ B 4 b	田中英世	2004 『井野長割遺跡(第8次)』『財団法人印旛郡市文化財センター発掘調査報告書第219集』(財)印旛郡市文化財センター
	井野長割	28号土壇	大淵BC	V 5	Ⅴ B 4 b	田中英世	2004 『井野長割遺跡(第8次)』『財団法人印旛郡市文化財センター発掘調査報告書第219集』(財)印旛郡市文化財センター
	横井戸跡之助	37号土壇	埴之内1-人骨と共伴	Ⅱ 6	Ⅱ B 9 a ア	田中英世	1998 『10.横井戸跡之助遺跡』『市原市文化財センター年報—平成10年度—』(財)市原市文化財センター
	内野第1	2号人骨	安行2	Ⅳ 6	Ⅳ B 9 a	田中英世・古谷渉	2001 『内野第1遺跡発掘調査報告書』(財)千葉市文化財調査協会
	加曾利大山地点		埴之内1-人骨と共伴	Ⅱ 6	Ⅱ B 9 b	田中英世	1937 『千葉県千葉市加曾利貝塚調査報告』『史前学雑誌』第9巻第1号
	姥山M地点		加曾利B-人骨と共伴	Ⅲ 6	Ⅲ B 9 b	田中英世	1971 『貝塚文化—縄文時代—』『市川市史Ⅰ 原始・古代』市川市
	鹿島前	S2	埴之内1	Ⅱ 4	Ⅱ B 24 E	石田守一	2005 『我孫子市史原始・古代・中世編 図2-63-1』(石田守一氏御教示による)
	宮内井戸作	P-25-21	加曾利B	Ⅲ		設楽和重	2003 『宮内井戸作遺跡発掘調査報告書』『財団法人印旛郡市文化財センター発掘調査報告書第200集』(財)印旛郡市文化財センター
	宮内井戸作	M-25-09	加曾利B	Ⅲ		設楽和重	2003 『宮内井戸作遺跡発掘調査報告書』『財団法人印旛郡市文化財センター発掘調査報告書第200集』(財)印旛郡市文化財センター
茨城	前田村	325号土壇	加曾利B・安行2	Ⅱ 7	Ⅱ B 2 b	横山清徳	1997 『伊奈・谷和原丘陵部特定土地地区再整理事業地内埋蔵文化財調査報告書2—前田村遺跡C・D・E区—』『茨城県教育財団発掘調査報告書第116集』茨城県教育財団
	小場	Sk-9	埴之内1	Ⅱ 7	Ⅱ B 3 a	沼田文夫	1986 『常磐自動車道関係埋蔵文化財調査報告書9—小場遺跡—』『茨城県教育財団発掘調査報告書第35集』茨城県教育財団
	砂川	21号土壇	加曾利E4	I 7	Ⅰ B 3 b	横山俊夫	1982 『常磐自動車道関係埋蔵文化財調査報告書4—砂川遺跡—』『茨城県教育財団発掘調査報告書第XVI集』茨城県教育財団
	小堤	13号土壇	埴之内1	Ⅱ 7	Ⅱ B 3 b	横山俊夫	1987 『茨城町小堤貝塚』茨城町史編纂委員会
	常福地A	250号土壇	埴之内2	Ⅱ 7	Ⅱ B 3 b	五反野・坂井二郎他	2002 『常福地ニュータウン内埋蔵文化財調査報告書7—常福地A遺跡—』(財)茨城県教育財団
	常福寺	8号土壇	埴之内1	Ⅱ 7	Ⅱ B 3 b	横山俊夫	2001 『常福寺遺跡』『大洗台地埋蔵文化財調査報告書第5集』大洗台地埋蔵文化財調査報告書
	小堤	3号土壇	安行3c	V 7	Ⅴ B 3 b	井上義安他	1987 『茨城町小堤貝塚』茨城町史編纂委員会
	小場	Sk-22	大淵・2個体	V 7	Ⅴ B 3 b	沼田文夫	1986 『常磐自動車道関係埋蔵文化財調査報告書9—小場遺跡—』『茨城県教育財団発掘調査報告書第35集』茨城県教育財団
	鳩台	2号土壇	晩期前半	V 7	Ⅴ B 3 b ア	西野保	2001 『鳩台遺跡発掘調査報告書』茨城県大洗市教育委員会
	前田村	781号土壇	大淵	V 7	Ⅴ B 4 b	横山清徳	1997 『伊奈・谷和原丘陵部特定土地地区再整理事業地内埋蔵文化財調査報告書2—前田村遺跡C・D・E区—』『茨城県教育財団発掘調査報告書第116集』茨城県教育財団
	前田村	2365号土壇	安行3a	V 7	Ⅴ B 4 b	吹野重夫・宮崎修士他	1999 『伊奈・谷和原丘陵部特定土地地区再整理事業地内埋蔵文化財調査報告書4—前田村遺跡G・H・I区—』『茨城県教育財団発掘調査報告書第146集』茨城県教育財団
	前田村	1715号土壇	安行3b	V 7	Ⅴ B 9	吉原作平・宮崎修士	1997 『伊奈・谷和原丘陵部特定土地地区再整理事業地内埋蔵文化財調査報告書3—前田村遺跡D・F区—』『茨城県教育財団発掘調査報告書第127集』茨城県教育財団
	上高津C地点	3号土壇	大淵C1~C2	V 8	Ⅴ B 9 b	稲田礼子・塩谷修	2006 『国指定史跡上高津貝塚C地点—歴史調査報告書—』土浦市教育委員会
埼玉	小場	第1次調査区B		V 8	Ⅴ B 14 C	沼田文夫	1986 『常磐自動車道関係埋蔵文化財調査報告書9—小場遺跡—』『茨城県教育財団発掘調査報告書第35集』茨城県教育財団
	氷川神社前	包含層	埴之内2	Ⅱ 9	Ⅱ A 3 a ア	小出輝雄	1990 『氷川神社前遺跡』『富士見遺跡群遺構—富士見市文化財報告第40集』富士見市教育委員会
	本目	包含層	埴之内2	Ⅱ 9	Ⅱ A 3 b	佐々木保俊他	1970 『本目遺跡第3・4地点』『富士見中央遺跡群Ⅰ—富士見市文化財報告第15集』富士見市教育委員会
	黒谷田前前	安行3b	V 9	Ⅸ A 3 b エ	宮崎朝雄	1976 『黒谷田前前遺跡』岩槻市遺跡調査会	
	明戸東	SK 225	埴之内	Ⅱ 9	Ⅱ B 4 a	磯路一	1989 『新田農・明戸東・原遺跡』『埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第85集』(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団
	雅楽谷	13号土壇	安行1	Ⅳ 9	Ⅳ B 1 a ア	横山俊夫	1996 『雅楽谷遺跡』『埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第93集』(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団
	さくら	1号土壇	加曾利E4	I 9	Ⅰ B 1 b	寺内正明・大塚孝司	1987 『さくら遺跡』『埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第9集』埼玉市教育委員会
	神明	61号土壇	埴之内2	Ⅱ 9	Ⅱ B 1 b ア	細川陽他	1987 『矢後・神明』『埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第65集』(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団
	雅楽谷	6号土壇	安行2	Ⅳ 9	Ⅳ B 1 b	横山俊夫	1989 『雅楽谷遺跡』『埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第93集』(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団
	西宮バヤノ5	42号土壇	加曾利E4	I 9	Ⅰ B 2 a	山形洋一・田代治	1989 『西宮バヤノ5No5』『大宮市遺跡調査会報告書第24集』大宮市遺跡調査会
	西宮	5号土壇	埴之内1	Ⅱ 9	Ⅱ B 2 a エ	小川智明	1970 『町台遺跡発掘調査報告書』『埼玉考古』第8号 埼玉県考古学会
	入沢沢西	1号土壇	埴之内	Ⅱ 9	Ⅱ B 2 a エ	横山清志他	2000 『海平岩跡・入沢沢西・入沢沢東』『埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第243集』(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団
	高井東(3次)	77号土壇	埴之内1	Ⅱ 9	Ⅱ B 2 a	高井東遺跡(第3次発掘調査報告書)	2002 『高井東遺跡(第3次発掘調査報告書)』高井東遺跡調査会
	馬場小室山	12号土壇	安行3a	V 11	Ⅴ B 2 a	青木義隆・小倉均他	1983 『馬場小室山遺跡発掘調査報告書(第5次)』『浦和市東部遺跡群調査報告書第3集』浦和市遺跡調査会
	神明	172号土壇	埴之内2	Ⅱ 9	Ⅱ B 2 b ア	細川陽他	1987 『矢後・神明』『埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第65集』(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団
	雅楽谷	26号土壇	安行3a	V 9	Ⅴ B 2 b	横山清徳	1996 『雅楽谷遺跡』『埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第93集』(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団

千葉市花輪貝塚出土の埋蔵注口土器の系譜(1)
田中英世

東北原	11号土壇	安行3a	V	9	国	15	B	2	b	イ	山形洋一他	1985	『東北原発掘調査報告書—第6次調査—』『大宮市文化財調査報告第19集』大宮市教育委員会	
馬場小室山	8号土壇	加曾利B1	III	11	国	26	B	3	a		青木義隆・小倉均他	1985	『馬場小室山遺跡発掘調査報告書(第9次)』『浦和市東部遺跡群報告書第5集』浦和市遺跡調査会	
吹原	26号土壇	堀之内1	II	9	国	16	B	3	b		吉田健司他	1985	吹原遺跡(先土器・縄文時代編)』『川口市文化財調査報告書第23集』川口市教育委員会	
戸崎前	44号土壇	堀之内	II	10	国	17	B	3	b		榎本勉	1997	『戸崎前遺跡』『埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第187集』(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団	
丸山台	24号土壇	称名寺2	II	10	国	18	B	3	b		野中和夫	1992	『丸山台遺跡群』『和光市埋蔵文化財調査報告書第5集』和光市教育委員会	
丸山台	141号土壇	称名寺2	II	10	国	19	B	3	b		野中和夫	1993	『丸山台遺跡群II』『和光市埋蔵文化財調査報告書第6集』和光市教育委員会	
前窪	21号土壇	堀之内1	II	10	国	20	B	3	b		青木義隆他	1977	『前窪跡跡地調査報告書』『浦和市東部遺跡群報告書第4集』浦和市遺跡調査会	
本郡	6号土壇	堀之内1・3個体	II	10	国	21	B	3	b	エ	宮内正勝他	1990	『本郡遺跡』『町内東部遺跡群発掘調査報告書第1集』松伏町教育委員会	
中三谷	41号土壇	堀之内2・2個体	II	10	国	22	B	3	b	ア	細田勝他	1989	『中三谷』『埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第76集』(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団	
中三谷	44号土壇	堀之内2	II	10	国	23	B	3	b		細田勝他	1989	『中三谷』『埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第76集』(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団	
諏訪木	D区58号土壇	後期末葉	IV	11	国	24	B	3	b		渡辺清志	2007	『諏訪木遺跡』『埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第336集』(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団	
馬場小室山	51号土壇	晩期初葉	V	11	国	27	B	3	b		青木義隆・小倉均他	1983	『馬場小室山遺跡発掘調査報告書(第5次)』『浦和市東部遺跡群報告書第3集』浦和市遺跡調査会	
裏忍恩寺東	4号土壇	堀之内2	II	11	国	29	B	4	a	エ	北木隆	1978	『裏忍恩寺東遺跡発掘調査報告書』『埼玉県遺跡調査報告書第33集』埼玉県遺跡調査会	
馬場小室山	3区6号土壇	堀之内2	II	11	国	28	B	4	a		青木義隆・中村誠二	1977	『馬場北・馬場小室山遺跡群発掘調査報告書』『浦和市遺跡調査報告書第50集』浦和市遺跡調査会	
大間木内谷	21号土壇	堀之内2	II	11	国	30	B	4	b	エ	青木義隆・大塚和男	1987	『大間木・大間木内谷遺跡群発掘調査報告書』『浦和市遺跡調査報告書第77集』浦和市遺跡調査会	
雅集谷Ⅱ	16号土壇	安行2	IV				B	4	b		渡辺清志他	2005	『雅集谷Ⅱ』『埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第307集』(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団	
入波沢東	1号土壇	網取1	II	11	国	31	B	6	a	エ	渡辺清志他	2006	『入波沢西・入波沢東』『埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第243集』(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団	
赤城	県花巻市中央地区	安行3a	V	12	国	34	D				新屋雅明	1988	『赤城遺跡』『埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第74集』(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団	
赤城	花巻市中央地区	安行3a	V	12	国	35	D				新屋雅明	1988	『赤城遺跡』『埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第74集』(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団	
諏訪木	C区	加曾利B	III				E				黒坂祐二	2002	『池上ノ諏訪木』『埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第282集』(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団	
赤山	トチの東加工場	安行3a	V	12	国	33	E				金第文他	1989	『赤山』『川口市遺跡調査報告書第12集』川口市遺跡調査会	
上組Ⅱ	4号小堅穴	堀之内1	II								黒坂祐二	1989	『上組Ⅱ』『埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第80集』(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団	
城下	特殊遺構	堀之内2	II	12	国	32					徳山晃光	1985	『城下遺跡』『深谷市埋蔵文化財調査報告書第6集』深谷市教育委員会	
上敷免	SK3	加曾利B	III								木戸春夫	2000	『上敷免』『埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第248集』(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団	
榑木	八剣	SK 628	称名寺	II	13	国	1	B	1	a	イ	榑本節也・倉田恵子他	2001	『八剣遺跡』『榑木県埋蔵文化財調査報告書第264集』(財)とちぎ生涯学習文化財団
ハックトンヤ	SK 92	網取1	II	13	国	2	B	1	a	イ	後藤信裕・大塚貴史	2007	『ハックトンヤ遺跡』『榑木県埋蔵文化財調査報告書第302集』(財)とちぎ生涯学習文化財団	
瑞平	SK 377	堀之内1	II	13	国	3	B	1	a	ウ	後藤信裕・谷中隆	1994	『瑞平遺跡』『榑木県埋蔵文化財調査報告書第144集』(財)榑木県生涯学習文化財団	
小鍋前	SK 956	堀之内1	II	13	国	5	B	1	a	ウ	塚原孝一	2005	『小鍋前遺跡』『榑木県埋蔵文化財調査報告書第313集』(財)とちぎ生涯学習文化財団	
下り松	SK 62	加曾利B	III	13	国	13	B	2	a	ア	内山敏行	1998	『新野古墳群・新野遺跡・下り松遺跡』『榑木県埋蔵文化財調査報告書第214集』(財)榑木県文化振興事業団	
寺野東	堀105	堀之内1	II	14	国	23	B	1	a		江原英	2001	『寺野東遺跡Ⅱ(縄文時代 生活層Ⅱ)』『榑木県埋蔵文化財調査報告書第250集』(財)とちぎ生涯学習文化財団	
聖山公園	134号土壇	加曾利E4	I	13	国	4	B	2	a	ア	梁木誠	1983	『聖山公園遺跡Ⅰ』『宇都宮市埋蔵文化財調査報告書第9集』宇都宮市教育委員会	
明神前	134号土壇	堀之内2	II				B	2	a	ア	永岡弘章	2002	『明神前遺跡』『鹿沼市埋蔵文化財調査報告書第14集』鹿沼市教育委員会	
小鍋前	SK 367	称名寺	II	13	国	6	B	2	b		塚原孝一	2005	『小鍋前遺跡』『榑木県埋蔵文化財調査報告書第313集』(財)とちぎ生涯学習文化財団	
鉄ノ平	SK 24	網取	I	13	国	10	B	2	b		津野一・塚田浩久	2003	『鉄ノ平遺跡』『榑木県埋蔵文化財調査報告書第270集』(財)榑木県生涯学習文化財団	
上り戸	SK 1419	堀之内	II	13	国	11	B	2	b	ウ	江原英	2005	『上り戸遺跡』『榑木県埋蔵文化財調査報告書第286集』(財)榑木県生涯学習文化財団	
三輪仲町	SK 161	堀之内2	II	14	国	14	B	2	b		塚原孝一・後藤信裕他	1994	『三輪仲町遺跡Ⅱ』『榑木県埋蔵文化財調査報告書第143集』(財)榑木県生涯学習文化財団	
横沢	SK 333	称名寺	II	14	国	15	B	3	a		後藤信裕・谷中隆	1999	『横沢遺跡』『榑木県埋蔵文化財調査報告書第1集71集』(財)榑木県生涯学習文化財団	
梨木平	P 18	加曾利E	I	14	国	17	B	3	b		海老原節一	1986	『梨木平遺跡—第1次〜第4次調査の総括—』『上河内村文化財調査報告書第6集』上河内村教育委員会	
御城山	SK 750	加曾利E4	I	14	国	18	B	3	b		岸邊清久・石橋知明他	1987	『御城山』『榑木県埋蔵文化財調査報告書第68集』(財)榑木県文化振興事業団	
野沢石塚	SK103	称名寺	II	14	国	19	B	3	b		後藤信裕・相田孝	2003	『野沢遺跡・野沢石塚遺跡』『榑木県埋蔵文化財調査報告書第271集』(財)とちぎ生涯学習文化財団	
野沢石塚	SK301	堀之内1	II	14	国	20	B	3	b		後藤信裕・相田孝	2003	『野沢遺跡・野沢石塚遺跡』『榑木県埋蔵文化財調査報告書第271集』(財)とちぎ生涯学習文化財団	
横沢	SK-166	堀之内1	II	14	国	16	B	3	b		後藤信裕・谷中隆	1999	『横沢遺跡』『榑木県埋蔵文化財調査報告書第1集71集』(財)榑木県生涯学習文化財団	
藤岡神社	S 429	堀之内1-2個体	II	14	国	21	B	3	b		手塚達也	1999	『藤岡神社遺跡』『榑木県埋蔵文化財調査報告書第197集』(財)榑木県文化振興事業団	
小鍋前	SK 907	堀之内1	II	13	国	7	B	3	b		塚原孝一	2005	『小鍋前遺跡』『榑木県埋蔵文化財調査報告書第313集』(財)とちぎ生涯学習文化財団	
小鍋前	SK 927	堀之内1	II	13	国	8	B	3	b		塚原孝一	2005	『小鍋前遺跡』『榑木県埋蔵文化財調査報告書第313集』(財)とちぎ生涯学習文化財団	
小鍋前	SK 982	堀之内1	II	13	国	9	B	3	b	エ	塚原孝一	2005	『小鍋前遺跡』『榑木県埋蔵文化財調査報告書第313集』(財)とちぎ生涯学習文化財団	
上り戸	SK 2067	堀之内2	II	13	国	12	B	3	b		江原英	2005	『上り戸遺跡』『榑木県埋蔵文化財調査報告書第286集』(財)榑木県生涯学習文化財団	
御蔵前	SK 93	安行2	IV	14	国	22	B	4	a		藤谷厚・木村友則他	2001	『御蔵前遺跡Ⅱ』『榑木県埋蔵文化財調査報告書第248集』(財)榑木県生涯学習文化財団	
榑木	単独瓦口土器	堀之内1	II	15	国	1	A	2	a	ア	佐々木勝雄	1984	『榑木遺跡』『横浜新道三ツ沢ジャンクション遺跡調査会	
大磯小学校	加曾利B		III	16	国	18	A	3	a	ア	鈴木一男	1976	『大磯小学校遺跡』『大磯町埋蔵文化財調査報告書第1集』大磯町教育委員会	
北原No.9	J2埋蔵土器	堀之内1	II	15	国	3	B	1	a	ア	市川正史・恩田勇	1994	『宮・瀬川前遺跡Ⅳ—北原(No.9)遺跡(2)・北原(No.11)遺跡』『神奈川県埋蔵文化財センター調査報告21』神奈川県埋蔵文化財センター	
連藤谷	7号土壇	堀之内1	II	15	国	4	B	1	a	イ		2003	『連藤谷山崎・連藤谷谷発掘調査報告書』三川文化財研究所	
篠原大原北	27号土壇	加曾利B1	III	15	国	5	B	1	a		堀井三子他	2007	『篠原大原北遺跡』(有)香妻考古学研究所	
羽沢大道	39号土壇	加曾利E4	I	15	国	7	B	2	b		中村良他	1993	『羽沢大道遺跡』県営羽沢大道団地内遺跡調査会	
同ノ丸山	J5住居上土壇	堀之内1	II	15	国	8	B	2	b	ア	竹石健二・野中和夫他	1989	『川崎市野生区同ノ丸山遺跡発掘調査報告書』川崎市教育委員会	
篠原大原北	6号土壇	堀之内2	II	15	国	6	B	2	b		堀井三子他	2007	『篠原大原北遺跡』(有)香妻考古学研究所	
榑木	54号土壇	堀之内1	II	15	国	2	B	3	b		佐々木勝雄	1984	『榑木遺跡』『横浜新道三ツ沢ジャンクション遺跡調査会	
小丸	102号土壇	堀之内	II				B	5	a		石井寛	1999	『小丸遺跡』『港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告25』(財)横浜市ふるさと歴史財団	
小丸	102号土壇	堀之内	II	15	国	9	B	5	a		石井寛	1999	『小丸遺跡』『港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告25』(財)横浜市ふるさと歴史財団	
西ノ谷	P 40	堀之内2	II	15	国	11	B	5	a		坂本彰	2003	『西ノ谷貝塚』『港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告33』(財)横浜市ふるさと歴史財団	
八幡台	1号土壇	加曾利B	III	16	国	12	B	5	a		諏訪間伸	1992	『I.東大竹・山王塚(八幡台)遺跡』『文化財ノート』第2集 伊勢原市教育委員会	
小丸	96号土壇	堀之内1	II	15	国	10	B	5	b	イ	石井寛	1999	『小丸遺跡』『港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告25』(財)横浜市ふるさと歴史財団	
原出口	60号土壇	堀之内2	II	16	国	13	B	5	b		石井寛	1995	『川和向原遺跡・原出口遺跡』『港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告XIX』(財)横浜市ふるさと歴史財団	
池端・金山	3号土壇	加曾利B	III	16	国	14	B	5	b		平塚市教育委員会	2007	『池端・金山遺跡』	
華蔵台	36号土壇	加曾利B1	III				B	5	b		東海大学校地内遺跡調査団	1997	『注口土器の美—第8回足もとに眠る歴史—』東海大学校地内遺跡調査団	
下谷戸(No.14)	13号土壇	加曾利B1	III	16	国	15	B	6			矢戸信吉他	2000	『三ノ宮・下谷戸(No.14)Ⅱ』『かながわ考古学財団調査報告76』(財)かながわ考古学財団	
寺山	加曾利B1		III				B	6			東海大学校地内遺跡調査団	2003	『丹沢を仰ぐ縄文遺跡—後・晩期の隆盛—』東海大学校地内遺跡調査団	
五反畑	10号石塚墓	後期末	III				B	6			安藤文一	1998	『南足柄氏五反畑遺跡』『第22回神奈川県遺跡調査・研究発表会発表要旨』神奈川県考古学学会	
											東海大学校地内遺跡調査団	2003	『丹沢を仰ぐ縄文遺跡—後・晩期の隆盛—』東海大学校地内遺跡調査団	

菅根吹上	6号敷石	堀之内2	D	16	区	19			高山純他	1975	『菅根吹上—配石遺構発掘調査報告書—(図版編)』
高津2号No.6	3号集石土塊	加曾利E4	1				B	8	河村雪之	1981	『3号集石土塊調査遺物』『横浜市道高津2号埋没文化財発掘調査報告書 1990年度 (No.6遺跡-1)』横浜市道高津2号埋没文化財発掘調査団
石神台		加曾利B	11						鈴木一男他	1992	『石神台—神奈川県大磯町における縄文時代墓地の調査—』『大磯町文化財調査報告書第35集』大磯町教育委員会
稲荷山	1号埋蔵土	堀之内2	11	16	区	17	B	9	松田光太郎	2002	『稲荷山貝塚』『かながわ考古学財団調査報告131』(財)かながわ考古学財団
稲荷山	24号土塊	堀之内1	11	16	区	16	B	7	松田光太郎	2002	『稲荷山貝塚』『かながわ考古学財団調査報告131』(財)かながわ考古学財団
原出口	2号掘立	堀之内2	11						石井寛	1995	『川和向原遺跡・原出口遺跡』『港北ニュータウン地域内埋没文化財調査報告書IX』(財)横浜市ふるさと歴史財団
武蔵野台		加曾利E4	11	17	区	1	A	1 a ア	河内公夫	1996	『武蔵野台遺跡』『都立府中病院内遺跡調査会』
桜塚		堀之内1	11				A	1 a ア	後藤清洋		『小形石斧を収蔵せる注口土器一例』『石器時代第3号』
久原小学校内	J-1号埋蔵土	加曾利B	11	17	区	2	B	1 a ア	飯弘子・野本幸明他	2001	『久原小学校内遺跡』『大田区の埋没文化財第15集』大田区教育委員会
東山J地点	3号土塊	加曾利B3	11	17	区	6	B	2 b ア	吉田格・横山昭一	1995	『東京都目黒区東山遺跡(J地点)』『目黒区埋没文化財発掘調査報告書7』目黒区東山遺跡調査団
東山K地点	1号土塊	堀之内2	11	17	区	7	B	3 a		1998	『東京都目黒区東山遺跡(K・L・Q地点)』『目黒区埋没文化財発掘調査報告書12』目黒区東山遺跡調査団
和田・百草	J-SI-1	堀之内1	11	17	区	5	B	3 b	永峰光一他	1982	『和田・百草遺跡』『多摩市埋没文化財調査報告3』多摩市教育委員会
豊沢	344号遺構	堀之内1	11	17	区	8	B	3 b	菊池実他	1999	『豊沢貝塚第2地点発掘調査報告書』豊沢貝塚遺跡調査会
久原小学校内	J-13号土塊	加曾利B	11	17	区	3	B	5 a イ	飯弘子・野本幸明他	2001	『久原小学校内遺跡』『大田区の埋没文化財第15集』大田区教育委員会
久原小学校内	J-14号土塊	加曾利B	11	17	区	4	B	5 a イ	飯弘子・野本幸明他	2001	『久原小学校内遺跡』『大田区の埋没文化財第15集』大田区教育委員会
なすな原	316号土塊	善谷	11	17	区	9	B	5 a	成瀬勝範他	1984	『なすな原遺跡』なすな原遺跡調査会
なすな原	377号土塊	善谷	11	17	区	10	B	5 a	成瀬勝範他	1984	『なすな原遺跡』なすな原遺跡調査会
寺改戸	9号土塊	加曾利B	11	17	区	12	B	5 b	久原田正壽	1986	『東京都青葉市寺改戸遺跡』青葉市教育委員会
野津田上の原	H42号土塊	加曾利B	11	18	区	13	B	5 b	金子裕幸・後藤貴之	1997	『野津田上の原遺跡』野津田上の原遺跡調査会
野津田上の原	H48号土塊	加曾利B	11	18	区	14	B	5 b	金子裕幸・後藤貴之	1997	『野津田上の原遺跡』野津田上の原遺跡調査会
野津田上の原	J66号土塊	加曾利B	11	18	区	15	B	5 b	金子裕幸・後藤貴之	1997	『野津田上の原遺跡』野津田上の原遺跡調査会
野津田上の原	J69号土塊	加曾利B	11	18	区	16	B	5 b	金子裕幸・後藤貴之	1997	『野津田上の原遺跡』野津田上の原遺跡調査会
野津田上の原	N4号土塊	加曾利B	11	18	区	17	B	5 b	金子裕幸・後藤貴之	1997	『野津田上の原遺跡』野津田上の原遺跡調査会
なすな原	383号土塊	晩期	V	18	区	11	B	5 b	成瀬勝範他	1984	『なすな原遺跡』なすな原遺跡調査会
田端	SII	加曾利B	11	18	区	18	B	6	浅川利一	1974	『田端の環状横石遺構にみる縄文時代後・晩期の葬法推移について』『長野県考古学会誌』19・20
なすな原	413号土塊	加曾利B3	11	18	区	19	B	6 b	成瀬勝範他	1984	『なすな原遺跡』なすな原遺跡調査会
原東		加曾利B1							阿部真・相川肇	2005	『原東遺跡』『東京都町田市遺跡分布調査報告書』町田市教育委員会
井之頭A地点	SS3集石	中期末	1				B	8			
国術	堀之内2		11	19	区	1	A	2 a イ	小澤茂幸・田口隆	1992	『国術遺跡群II』『松井町文化財調査報告第6集』松井町教育委員会
(稲荷通り)	U-1埋蔵土	堀之内2	11	19	区	2	A	2 a イ	志村哲	1992	『稲荷通り遺跡』群馬県群馬市教育委員会
下綱引II	堀之内2		11	19	区	3	A	2 a	関口孝・前原真	1994	『下綱引II遺跡』『内堀遺跡群IV』前原市教育委員会
中江田A	A-1号土塊	加曾利4	1	19	区	4	B	1 a イ	小宮俊久他	1997	『中江田遺跡群』『新田町文化財調査報告第16集』新田町教育委員会
内匠上之宿	7号埋蔵土	称名寺2	11	19	区	5	B	1 a イ	新井仁	1993	『内匠上之宿遺跡』『群馬県埋没文化財調査報告第143集』(財)群馬県埋没文化財調査事業団
内匠上之宿	254号土塊	堀之内1	11	19	区	6	B	1 a イ	新井仁	1993	『内匠上之宿遺跡』『群馬県埋没文化財調査報告第143集』(財)群馬県埋没文化財調査事業団
天神原	D-5号土塊	堀之内1	11	19	区	8	B	1 a イ	井上慎也他	2004	『中野谷遺跡群2』安中市教育委員会
中島	D-20	堀之内1	11	19	区	9	B	1 a イ	井上慎也他	2004	『中野谷遺跡群2』安中市教育委員会
坂詰	35号土塊	堀之内2	11	19	区	13	B	1 b	井上太	1990	『新井・坂詰遺跡』『富岡市埋没文化財発掘調査報告書第6集』富岡市教育委員会
糸井大夫	76号土塊	加曾利4	1	20	区	22	B	2 a	石北直樹	1995	『糸井大夫遺跡』『昭和村埋没文化財発掘調査報告書第6集』昭和村教育委員会
中島	D-185	堀之内2	11	19	区	10	B	2 a	井上慎也他	2004	『中野谷遺跡群2』安中市教育委員会
阿佐美(9次)	7土塊	加曾利B	11				B	2 a ア	小菅将夫	1999	『群馬の注口土器』(図録・資料集)
白倉B区	B区148号土塊	称名寺1	11	20	区	14	B	2 a	木村収	1994	『白倉下原・天引内原遺跡II』『関越自動車道(上越線)地域埋没文化財発掘調査報告第25集』(財)群馬県埋没文化財調査事業団
白倉B区	B区150号土塊	堀之内1	11	20	区	15	B	2 b	木村収	1994	『白倉下原・天引内原遺跡II』『関越自動車道(上越線)地域埋没文化財発掘調査報告第25集』(財)群馬県埋没文化財調査事業団
陣場	11号土塊	称名寺	11				B	2 b	小菅将夫	1999	『群馬の注口土器』(図録・資料集)
柳田	35号土塊	堀之内2	11	20	区	16	B	2 b	松村一昭	1982	『III-2 A区(柳田遺跡)』『今井町遺跡群発掘調査要報』赤堀村教育委員会
阿佐美(6次)	327土塊	加曾利B	11				B	2 b ウ	小菅将夫	1999	『群馬の注口土器』(図録・資料集) 岩宿博物館
糸井大夫	7号住居下土塊	加曾利B	11	20	区	23	B	2 b	石北直樹	1995	『糸井大夫遺跡』『昭和村埋没文化財発掘調査報告書第6集』昭和村教育委員会
中島	D-4	加曾利B	11	19	区	11	B	3 a	井上慎也他	2004	『中野谷遺跡群2』安中市教育委員会
中島	D-373	堀之内2	11	19	区	12	B	3 a	井上慎也他	2004	『中野谷遺跡群2』安中市教育委員会
三原田	2-113-Cpit	称名寺	11	20	区	17	B	3 a	佐藤明人	1992	『三原田遺跡第3集(中期後半期～後期初頭期)』『埋没文化財発掘調査報告第25集』群馬県企業局
三原田	3-P23-Dpit	堀之内2	11	20	区	18	B	3 a	佐藤明人	1992	『三原田遺跡第3集(中期後半期～後期初頭期)』『埋没文化財発掘調査報告第25集』群馬県企業局
鳥取遺跡II	D-123	堀之内2	11	20	区	20	B	3 a		1998	『鳥取遺跡II遺跡』前原市埋没文化財発掘調査報告書
下佐野馬場	7区71号土塊	加曾利4	1	20	区	19	B	3 b	新井敏二	1986	『下佐野遺跡第II地区1』『上越新幹線開通地域埋没文化財発掘調査報告第25集』(財)群馬県埋没文化財調査事業団
深沢	D区16号土塊	加曾利B	11	20	区	21	B	6 b	奥山公男他	1987	『深沢遺跡・前田原遺跡II』『上越新幹線開通地域埋没文化財発掘調査報告第10集』(財)群馬県埋没文化財調査事業団
今井東平		加曾利B	11				B	6 b	松島敏治	1996	『東平遺跡』『新発見考古学連載96—群馬発掘最前線—』群馬県教育委員会
天神	土塊	加曾利B	11	20	区	24	B		小菅将夫	1999	『群馬の注口土器』(図録・資料集) 岩宿博物館
前中後II	4c-2列石	堀之内2	11	20	区	25	C		長谷川福次	1980	『北極村内遺跡II・IV』北極村教育委員会
五科野久保	2号敷石	堀之内	11	20	区	26	C		福山俊彰	1997	『五科野久保遺跡II』『五科平遺跡・五科野久保遺跡・五科稲荷谷遺跡』松井町遺跡調査会
行田榎木平	1号配石	加曾利B—2個体	11	21	区	27	C		関宮政光	1997	『行田榎木平遺跡(行田II遺跡)』『関越自動車道(上越線)地域埋没文化財発掘調査報告書集』松井町遺跡調査会
行田榎木平	2号配石	加曾利B	11	21	区	27	C		関宮政光	1997	『行田榎木平遺跡(行田II遺跡)』『関越自動車道(上越線)地域埋没文化財発掘調査報告書集』松井町遺跡調査会
浅田		加曾利B	11				C		大工原豊	2006	『ストーンサークルの出現』(図録) 安中市ふるさと学習館
内匠上之宿	11号溝	堀之内2	11	19	区	7			新井仁	1993	『内匠上之宿遺跡』『群馬県埋没文化財調査報告第143集』(財)群馬県埋没文化財調査事業団
千綱谷戸	石塚	堀之内1	11						廣田芳雄	1954	『千綱谷戸』岡毛考古学会
千綱谷戸	W-S地点	堀之内1	11						廣田芳雄		『千綱谷戸遺跡W-S地点発掘調査報告書』桐生市教育委員会
千綱谷戸	D-II石田	堀之内1	11						廣田芳雄	1973	『千綱谷戸遺跡東側部地点発掘調査報告書』桐生市教育委員会
千綱谷戸	石塚	大洞BC	IV						伊藤晋祐・増田隆他	1978	『千綱谷戸遺跡発掘調査報告書』桐生市教育委員会
下田	2号河道	堀之内	IV						小室豪・小宮俊久	1994	『下田遺跡』『新田町文化財調査報告第14集』新田町教育委員会

(註 4)。デボ的出土(武蔵台)、小堅穴出土(佐野Ⅱ一石棒を伴う)、墓壙(羽沢大道)出土があり、鉢形土器は、屋外埋設(ささら・聖山公園)が認められる。Ⅱ期では、瓢形土器は屋外埋設(帷子峰・北原)のみ。浅鉢形土器は、国衙類型とされるものが、屋外埋設(国衙・中江田 A・天神原・中島)と、小堅穴(丸山台)から、全て逆位の「伏鉢」の状態で出土している。この土器の変遷については既に分析が加えられおり、「伏鉢」が加曽利 B 式期まで継続することが確認されている他(文献 3)、中部地方を中心とした分布を示すことが判明している(文献 4)。Ⅱ期の堀之内 1 式後半から、小形の算盤玉形を呈する堀之内類型が出現する(註 5)が、これらは B 5 の墓壙群に多く伴い、大形土器と共伴する例(神明・中山谷)と、単独出土例(小丸・久原小学校内)がある。北関東では、網取式の浅鉢形土器が、合口の蓋(ハケットンヤ)や配石遺構下の土壙(入波沢西)から出土する。槻木沢 S K133 では、対の耳飾が伴っており、寺野東埋 102 では、ヒトカイヌと思われる脂肪酸が検出されている。Ⅲ期では、Ⅱ期後半で認められた墓壙群が、西関東で全面的に展開する(野田上原・なすな原)。副葬品は、鉢・壺等の小形精製土器と注口土器が併用され、注口土器を欠く遺跡も認められ(註 6)、時期的な相違が指摘されている(文献 5)。これに対して、群馬県では、配石遺構に注口土器が伴い(前中後Ⅱ・行田梅木平)、地域性が認められようになる(文献 6)。このような現象は西関東で認められるもので、千葉県を中心とした東関東の変遷はよく解っていない。Ⅰ期とⅡ期には、瓢形注口土器の小堅穴出土(Ⅰ期一江原台・六崎貴船 Ⅱ期一三輪野山)例が認められるが、Ⅱ期以降はⅤ期まで井戸状の深い土壙出土が主体となる。このタイプの土壙は、堀之内式以降に多く認められる貯蔵穴で、大宮台地南部から千葉・茨城にかけて多く検出され、犬の埋葬頭骨が検出されている例(前田村 D 区 496 号土壙)(文献 7)もあり、墓壙や祭祀儀礼説等の意見が出されている(註 7)。Ⅴ期の馬場小室山 51 号土壙や井野長割 28 号土壙では、覆土中から木柢の存在を示唆する炭化物が検出され、地下埋納施設の存在が示唆されている(文献 9)。東関東では、注口土器が人骨に伴う例(関戸鎌之助・内野第 1)があるが、Ⅲ期の千代田遺跡群の墓壙群では注口土器の参画はなく(文献 8)、Ⅴ期では注口土器が石棒等と集中して出土する遺跡(赤城祭祀遺物集中地点)が認められる等、注口土器が直接葬送儀礼に関与するのではなく、祭祀的色彩が強い出土状態を示している。

3. 花輪貝塚出土の埋設注口土器の系譜

花輪貝塚の埋設注口土器の類例は、今回集成した中では、僅かに栃木県小鍋前 S K956(10 図 5)・S K982(10 図 9)があるのみで、両者とも堀之内 1 式期に比定されている。文様の特徴となる、渦巻文と磨消縄文は、全面縄文→沈線→磨き・磨消帯形成の順で施文が行われており、渦巻文と注口部から垂下する磨消帯の上下には円形の列点がある、このような施文工程と文様構成を持つ土器は、県内では清水 13 号土壙(大台遺跡群)(註 8)に類例が求められる他はあまりなく、今後の資料集成と分析が更に必要である。

調査終了後、新たに注口土器の破片を B 貝層から採集した(2 図 3)。刺突を施す弧状の貼付は、神奈川県西ノ谷 P40(15 図 19)に類例が求められるが、加曽利 B 2 式の異形台付土器の中にも類似する技法が認められ(註 9)、今後の検討を要する。

花輪貝塚では、斜面部貝層と住居は堀之内 2 式期であるのに対し、屋外埋設土器と注口土器および人骨は堀之内 1 式期の可能性が高い。都川を挟んだ南側に対峙する押元貝塚も、当該期の貝層と獣骨層の形成が試掘調査で確認されており、下流の矢作貝塚は豊富な骨角器より漁労専業集団の存在が示唆されている。都川下流域では、ほぼ同じ時期に性格が異なる貝塚が存在する様相が認められ、加曽利貝塚および周辺の

遺跡との関係が今後の課題となる。

今回の集成は、鶴岡英一・西野雅人両氏からの、市原市関戸鎌之助遺跡の石棒と注口土器の資料提示が契機となった。また、石田守一・大熊佐智子・高麗 正・永岡弘章・蓼沼香未由・小菅将夫・秋田かな子・加藤 緑・江原 英・野田市教育委員会・大洗町教育委員会・岩宿博物館・東海大学校地内遺跡調査団・大田区立郷土博物館の各氏・各機関には、類例の紹介や資料の提供を受け、多くのご協力を頂いた。記して感謝申し上げる。

((財)千葉市教育振興財団 埋蔵文化財調査センター)

註

1. 屋外埋設土器 23 基が検出されているが、堀越正行氏は、「土器大片や小形土器が横倒しに押し潰されていると判断され埋設の可能性は薄い」ものがあるとして、屋外埋設土器を 11 基とし、当該土器を屋外埋設土器からはずしている。なお、氏は当遺跡を環状土壙墓群と捉えている。

堀越正行 1985 「市川市株木東遺跡環状土壙墓群考」『史館』18

堀越正行 2001 「株木東遺跡」『千葉県の歴史 資料編 1 (旧石器・縄文時代)』千葉県

2. 『埼玉県史』では、本例を土壙墓としている。大磯小学校では、2 個体の注口土器はトレンチ内の同一レベルから出土している。
3. 底面付近からほぼ完形の安行 3 a 式土器が 38 個体出土。底面上 40 cm の灰層からは安行 3 a 式期の遺物と猪・鹿の獣骨が出土している。
4. 注口土器は人骨に伴うものではなく、人骨下の住居に伴う可能性があるとの指摘がある。
5. 国衙類型・堀之内類型とは、鈴木克彦氏によるもので、鈴木徳雄氏によるものとは異なる。

鈴木克彦『注口土器の集成的研究』

6. 三の丸・石神(神奈川)・丸山 A (東京) など(文献 5)。北関東の乙女不動原北浦(栃木)の墓壙群でも注口土器の参画はない。丸山 A (東京) 遺蹟からは、土器に埋納された対の耳飾が出土している。

三沢正善 1981 「乙女不動原北浦遺蹟—縄文時代晩期の土壙墓について—」『栃木県考古学会誌』6

吉田至・下原祐司 2003 「三鷹市丸山 A 遺蹟」『東京都遺跡調査・研究発表会 28 要旨』

7. 鈴木正博氏は、底面に骨片・炭化物を伴う例(馬場小室山 30 次 7 号土壙)があることから、墓壙説を唱えている。また、能満上小 113 号土壙の調査を行った忍沢成規氏は、覆土形成が短時間に行なわれており、土器を意図的に分割埋納し、最後に火を燃やした土壙廃棄の祭祀儀礼を想定している。

鈴木正博 2005 「高井東遺蹟から馬場小室山遺蹟へ—「焼獣骨角小片群」、「住居址空間多目的利用」、そして「敷土遺構」から所謂「環状盛土遺構」へ—」『埼玉考古』40

忍沢成規 1995 『市原市能満上小貝塚』(財)市原市文化財センター

8. 7 土壙 3 の土器。報告者は加曾利 B 式としているが、堀之内 1 式である。胴部磨消帯や渦巻文が稚劣で、花輪例より古いと思われる。武士 086 土壙出土例も施文工程は同じと思われるが、形態が異なる。

渋谷 貢・荒井世志記 1991 「大台遺跡群」『山武都市文化財センター発掘調査報告書第 8 集』

9. 広袴遺跡(東京)・吉見台貝塚(千葉)等。

堀越正行 1995 「祭祀関連遺物」『関東地方後期の土偶—土偶シンボリズム 3 栃木大会—』

文献

1. 田中英世 2006 『千葉市花輪貝塚』 (財)千葉市教育振興財団
2. 長崎宏昌 1997 「山梨県内出土の注口土器について」『山梨県史研究』5
3. 鈴木徳雄 1992 「縄文後期注口土器の成立—形態変化と文様帯の問題—」『縄文時代』3
鈴木徳雄 1992 「縄文後期浅鉢形土器の意義—器種と土器行為の変化—」『縄文時代』11
4. 中村耕作 2006 「縄文時代後期前半期の土器被覆葬」『史学研究集録』第31号
5. 中村耕作 2008 「縄文時代後期の土器副葬—関東・中部地方における葬送儀礼の一類型—」『神奈川考古』44
中村耕作 2008 「葬送儀礼における土器形式の選択と社会カテゴリー—縄文時代後期関東・中部地方の土器副と土器被覆葬—」『物質文化』85
6. 林克彦・細野千恵子 1997 「墓制から見た地域性—縄文時代後晩期・関東地方西部の墓制の検討から—」『史共』29
青山学院大学史学会
7. 横堀孝徳 1996 「前田村遺跡の円筒状土坑について」『研究ノート』6 (財)茨城県教育財団
8. 小川和博 2001 「千代田遺跡群」『千葉県の歴史 資料編1 (旧石器・縄文時代)』千葉県
9. 鈴木正博・馬場小室山遺蹟研究会 2006 「馬場小室山遺蹟における「環状土塚」の研究—多世代土器を多数埋設する風習を中心として—」『日本考古学協会第72回総会研究発表要旨』
10. 大田区立郷土博物館 1987 『特別展図録 縄文の神秘 注口土器』
東海大学耕地内遺跡調査団 1997 『注口土器の美』
笠懸野岩宿文化資料館 1999 『群馬の注口土器』